婦人運動

第7卷　第4號



四月号

職業婦人社發行

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）　昭和四年三月三十一日印刷納本　同四年四月一日發行　第七卷　第四號

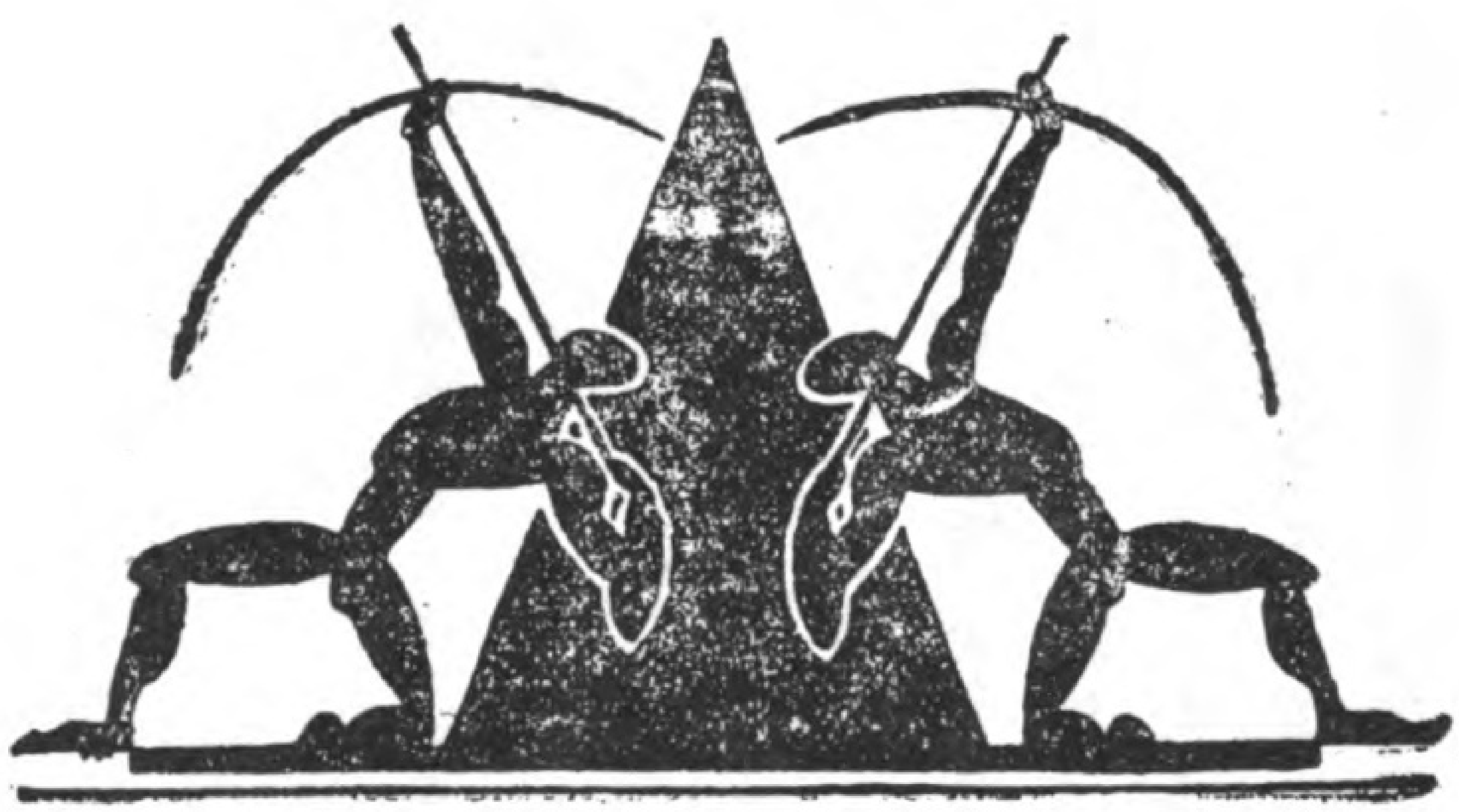
婦人運動

四月號　第七巻第四號

目次

婦人運動

第七巻 第四號





婦人公民權の成行

金子しげり

第五十六議會に於て、婦人公民權が一時は物になりさうな様子を示してゐたにも不拘、結局は矢張握り潰されて、婦人側の慘敗に歸した事は、その理由が何れにあつたにもせよ、御同様婦人として誠に遺憾至極な事でありました。

□

婦選獲得の理論問題は姑く措き、現實の婦選獲得運動に於ては、今年の議會は全く公民權にとつては逸してはならない好機なのでした。何故ならこの第五十六議會には、政府から地方制度改正案が提出されるからなのです。

參政權を獲得する爲には衆議院議員選擧法の改正を行はしめねばならず、結社權を獲るためには、治安警察法の改正が斷行されねばなりませんが、公民權は地方制度の改正に俟つべきものなのです。

勿論我々は毎年議會に有志議員の手を通じて、まづ我々の意志に近いそれ〳〵の法律案を提出させて來ては居りますが議員提出の法律案といふものと、政府提出案といふものを比べれば、强さに於て殆ど比較にならない程であつて、例へば政府案ならば議會の會期中の初めの方にどし〳〵上程になるそして、殆ど大部分が通過をする、貴族院に廻されても大抵通る、それが議員提出案になれば會期の後の方に廻され、運が惡ければ審議未了で暗から暗に葬られる。もしも運よく早く上程になつても、兩院の通過が相當困難なるが多い、殊に貴族院では大抵握り潰される――かういつた事になつてゐますから、現實的にみれば、政府案で出させる事が、どんな問題にしても一番强い、實現の可能性があるのです。

□

去年の六月　政友會が臨時議會後、自黨の不人氣挽回の爲に、いくつかの新政策を發表した中に、突如として婦選も加えられてゐた事は、當時各方面で種々の批評を浴びせられた事ですが、與黨がともかくこれを取上げるといふ事は、最初に斷つた樣に理論の問題は別として、現實的には中々よい手掛りなのです。つまり從來婦選關係諸案はこゝ十年ほど毎年議會に出るには出るものゝ、未だどれかの政黨が取り上げるといふ所までには到つてゐなかつたのでありますから、黨として取り上げたといふ點が、實際運動には一種の手がゝりとするに足りるものなのではありました。（勿論無產黨はどれも明瞭に婦選を政策に提げてゐますが、今日の議會に於ける勢力はまだ議會を導くに足りませんから、此なぞは問題ではないのです。）

そこで現實的な立場からいへば、一端提げた以上、これを空手形にさせずに、どの程度にしてもものにさせるやうに、政友會を後から動かさなければならない、そこで、政友會の政務調査會にこれが審議が委ねられると早速この會に對する運動を開始したのです。

同時に政府では行政制度審議會といふものでこの問題が審議される事になつたので此方にも運動を行ふ事にしました。

所で行政審議會の幹事會は九月已に、現行男子と同樣の公民權を婦人に附與する事を決議しましたし、政友の政調會も婦選中まづ公民權より初める事としてこれが附與を十二月に至つて可決したのです。そして最後にはこの二つの會が互に接近して公民權問題を審議してゐましたから、世間でもどうしたつて第五十六議會に出される政府の地方制度改正案中には婦人公民權附與の條項を含ませるものと觀測して居りました。

□

所が例の望月內相の聲明なるものが、この一月五日になつて各新聞にいきなり發表されたのです。卽ち政府は今度の改正案には公民權は含まない、理由は時期尙早だといふのです

尤も我々は政府案に含まれる確信を握り得た譯ではなかつたので、こんな時の爲にもと、已に毎年の通り議員からも提出させる段取は十二分に出來てゐましたから、愈々政府案に含まれないといふ事が決定するや、すぐ樣、その方の提出を急ぎました。その結果一月二十四日に民政派から一〇三名で一案と、新黨明政會一新會、無所屬の小會派から二十二名で

一案、更に翌二十五日に政友派も一四五名で一案と都合三つの公民權附與の法律案が合計二七〇名の贊成者を得て提出される事になりました。何しろ政府を向ふに廻して戰ふには數の上で衆議院の過半數を制して置かなくてはといふ策戰が美事に當つたのです。

茲に於て政府は周章て出しました。他黨はとにかく與黨から百四十名の多數（即ち政友會としても過半數）を以て出すなどゝはけしからぬといふので、例の望月內相面目問題をかつぎ出して、しきりに與黨の幹部を動かして政友派の有志議員に諒解を求め、政友提出の案だけは引込めて、內相の顏を立てゝくれと賴み廻りました。

所がこれが外部に洩れると、輿論はきう然と集り、各新聞は連日論說欄で、內相の尙早論を彈劾し即時附與の當然を論じ政府の陋劣さをなじりました。

實際政府の卑怯さは言語同斷で、衆議院の通過が如何とも防ぎ難い樣子をみると、すぐ貴族院に手を廻して、ぜひ此方で握り潰してくれといふ手を用つたので、貴族院でも政府の非立憲さを非難の聲が高まり、有志議員は政も民も、何でも通過させると意氣込む事になつたのです。

□

そこで遂に二月の七日が來て了ひました。此日に先き立つて五日には公民權拔きの政府の地方制度改正案が上程になりましたので、かねて手配をして當日は、政、民、無產の各派からなぜ公民權を加へなかつたか？ といふ事に就て質問をして貰ひました。政府はこれに對して內相と秋田次官を出して、例の「輿論不足と時期尙早」の一點張りで答辯しました。

七日には、公民權の他に、民政有志から舊冬提出ずみの參政權と結社權に關する法律案も共に上程されましたが、問題の中心にはやはり公民權がなり、約二時間に亙つて審議の結果、社民の西尾末廣氏の即決可決の提議も成立せずに、豫定の如く、政府案の地方制度改正案の委員會に併託されました

□

地方制度委員會は政友一四、民政一〇、新黨一、一新會一無產一の割合で二十七名より成り、委員長は政友の三輪市太郎老、七十才の老人でありました。

我々の運動も茲に於て委員會に移りました。委員會は二月九日から十六日まで殆ど連日開かれ、公民權を主に盛に論戰が行はれ、その勢は、どうしても政府案を修正する所に到り

さうであつたので、政府の狼狽はその極に達しました。

民政の委員になつてみれば、政府困らせは一番嬉しいことなので、どこまでも修正で行くと突張ります。政友の委員にしてみても、初めから此問題に反對な人は兎に角、贊成であり案の提出にも骨折つてみれば、今更態度を變へる譯にも行かず、勿論本當の硬派もあつて、どうも民政の思ひ通り、修正に傾きさうだつたのですが、政府の與黨議員懐柔は全く必死的であつたため委員會の意見はまとまりかね、爲に開催不能となりました。政友派委員は中途で『年齢三十才以上で、市町村だけに與へる。』といふ制限の折衷案を出して、修正しやうとし、それも持ち耐へられずに、結局修正はやめて、政府案は政府案として審議をすませ、無傷で通して、改めて單獨に公民權案だけを審議するといふ單獨案說によるといふ事になりました。

そして結局三月一日の最後の委員會に於て完全に葬られて了ひました。

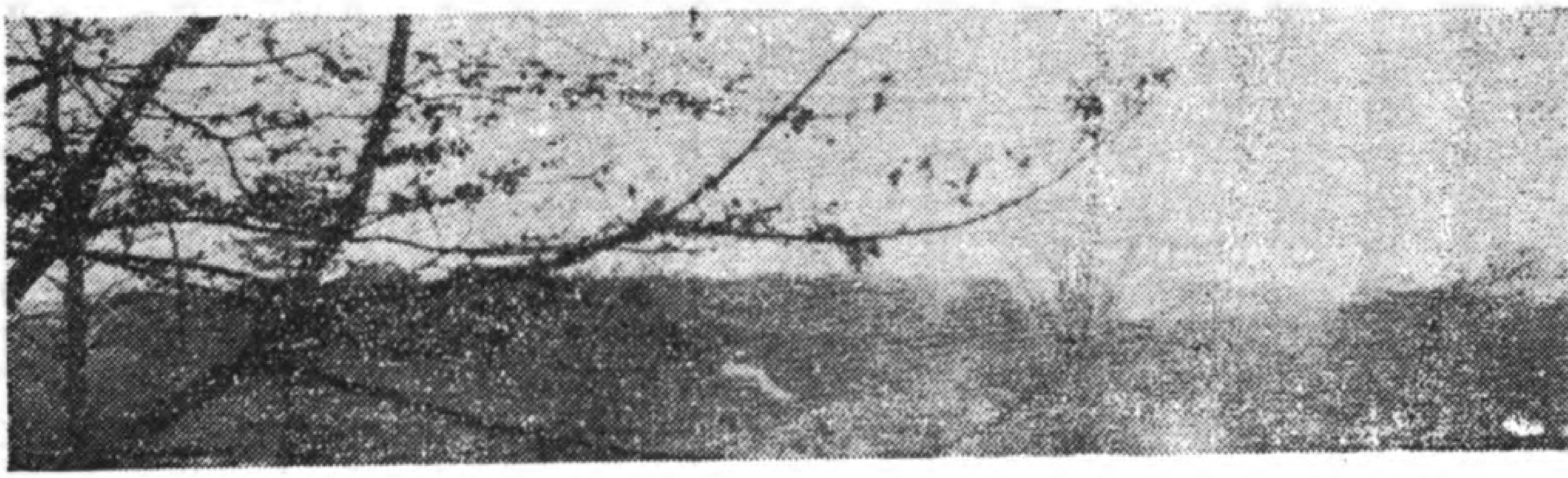
五日の本會議にはこれが報告になり、政府は適當の機會に實現を期する旨の言明の下に政友派の提出案は撤回せられ、第二讀會に於て更に民政より修正が主張されましたが、勿論少數否決となり、かくて第五十六議會に於ける婦人公民權案は政府の願ひ通りに流産となつたのであります。

□

要するに、政府にしても政友會にしても、取り上げたくて取り上げた譯ではない事は勿論、民政にしても政府困らせに用つただけで、中々民政の天下になつたからといつてすぐに實施する譯でもない事は判り切つてゐますけれど、もしも何にも婦人側から云ひもせず、行ひもせずにゐたならば、これよりももつと不眞面目な、惡い狀態で、この婦人に大關係のある問題が、今日の既成政黨に勝手に利用されさうなのであつて見れば、やはりこの現實に對しても無視して過ごす譯には行かないのでした。

將來としても既成政黨が黨勢擴張の具に婦選を扱はうとするのは、さけ難い事實だとしたら、やはり聰明にこれを用ひて我々の進出に利してもよいのではないでせうか。

望月内相の足りぬ〳〵といはれる輿論は政府の態度によつて、大に喚起されました。婦人の政治的自覺も亦大に〳〵振起されました。この次こそお互にしつかりやりたいものです



櫻の花のほころび

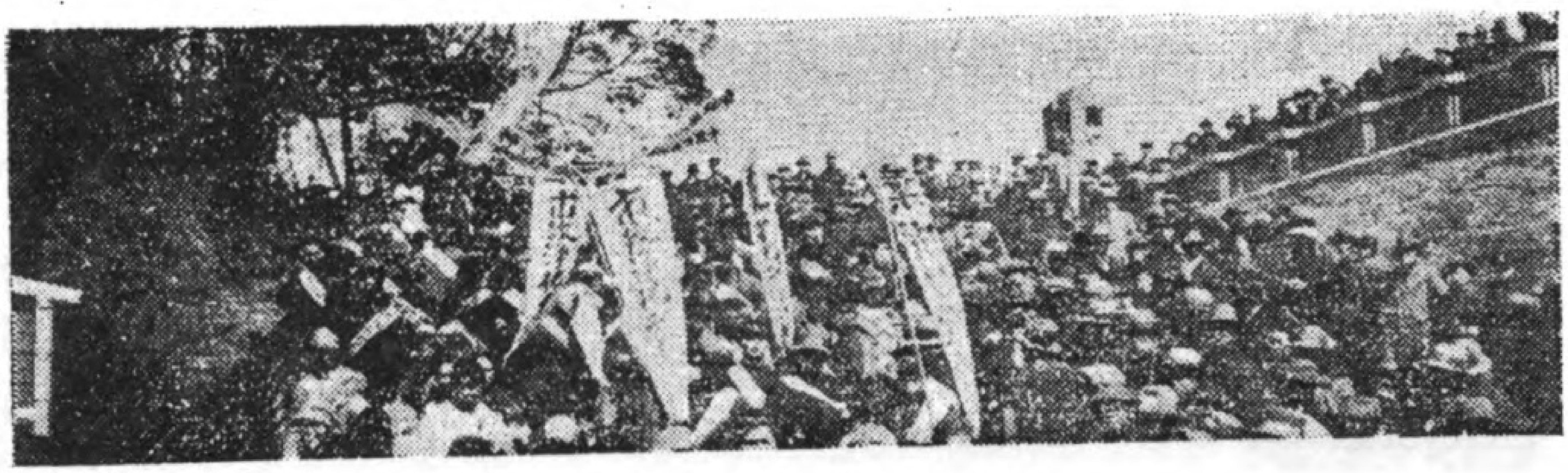
婦人界

學校卒業生におくる

奥むめお

わが國では學校を卒業するといふことは、勉學の機關から別れて實社會に入ることの樣に一般から考へられてゐます。女はことに僅かに八年なり十年なりの學校教育を終えたあとは研究讀書の生活からすつぽりと離れて煩はしい家庭雜務に追ひつかはれてしまひ易いものでありますが、これ位教育とか、勉學に對する根本的な考へ違ひはないといはねばなりません。殊に、從來のやうに學校の教育が實生活とは非常にかけ離れてゐる限り、各人がその心掛一つで實際生活の上に立つて自分自身で教育の再咀嚼をする覺悟で、かゝつてゆかなくてはならない筈です。

デンマークの更生は、實に國民高等學校の普及に初まると聞いてゐます。現在のやうに地方に留まつて勉學をつゞけ樣にも何らその機關がないために、勢ひ、金子のあるものは勿論、金子を持たないものも、意氣盛んなる若い人たちは郷里を離れて都會に集注してしまいます。而も都會は汗を流さずして金子と榮譽にありつかうとする似非インテリゲンチヤばかりを製造しすでにそのために行詰りつゝあるではありませんか。大學生一人あたりに一、三〇〇圓の國費を支出してなほ惜しとしない文部省が、大學へゆけない、高等女學校へもゆけない大多數の娘たちのためには何ら心を用ひてゐないのです。そして偶々行ふとすれば思想善導の名で女性の反動化、軍國主義訓練を企てゝほんとうの女性らしさを双葉の内から摘みとつてしまふのです結局私たち婦人が協力して、自分たちの力で求めるものを實現するより外ありません。



婦人も參加して東京市政淨化デー

經濟的不平等の兩極面

就職難、生活難の飢餓地獄が社會の半面をうづめてゐる一方、これは又途方もない新犯罪が發見されました。上流家庭の紊亂につけ込んで社交クラブやダンスホールに出入する名流婦人や令孃の中で特別なパトナーの有る人を物色して卑猥な映畫をみせ、あなた方も記念のために寫しておきなさいと勸めて應じない時は、その弱點を公表すると脅迫して、五百圓乃至千圓で愛人同志の行爲を映畫化し、又そのフイルムを複寫して外人專門に賣却してゐた數人の連累者が最近擧げられました。

食ふに食がなく、働くに仕事のない人々が強盗となり、竊盗となつて恐しい犯人となるのは普通の經路でありますが、働く必要もなく、虚榮と贅澤にその一日を持てあましてゐる有閑階級の人々が、官能的逸樂の生活にふける餘りかうした邪惡のふちに沈潜してしまふのも又當然の經路といはねばなりますまい。

斯うした罪惡の二つの面が急角度に進展して來る現在の社會を痛感するとき、われ〳〵は刻々に烈しくなる貧富の懸隔が如何に恐るべきものであるか、さうした社會から更生するためにはいかなる途を選ぶべきかと云ふ熾烈な要求に自ら打たれざるを得ないではありませんか。

再び婦人公民權に就いて

今期議會で婦人たちが、可なりムキになつて摑まうとしてゐた公民權がするりと掌を辷つて逃げてしまひました。

「適當な時期に於て必ずこれを實現せしめる。」といふ政府側の言質を鬼の首でも捕つたやうに喜んではしやぐ婦人がもし一人でも在るならこの際考へ直してみてほしい。せめてものことそれだけの申し開きを政府にさせたといふて、それを唯一の手柄顔にわれこそ婦人參政のための一番槍を、と忠誠がる代議士たちの正體をも、



政治を語る婦人の會合

私たちはこの際見誤つてはならぬと思ひます。

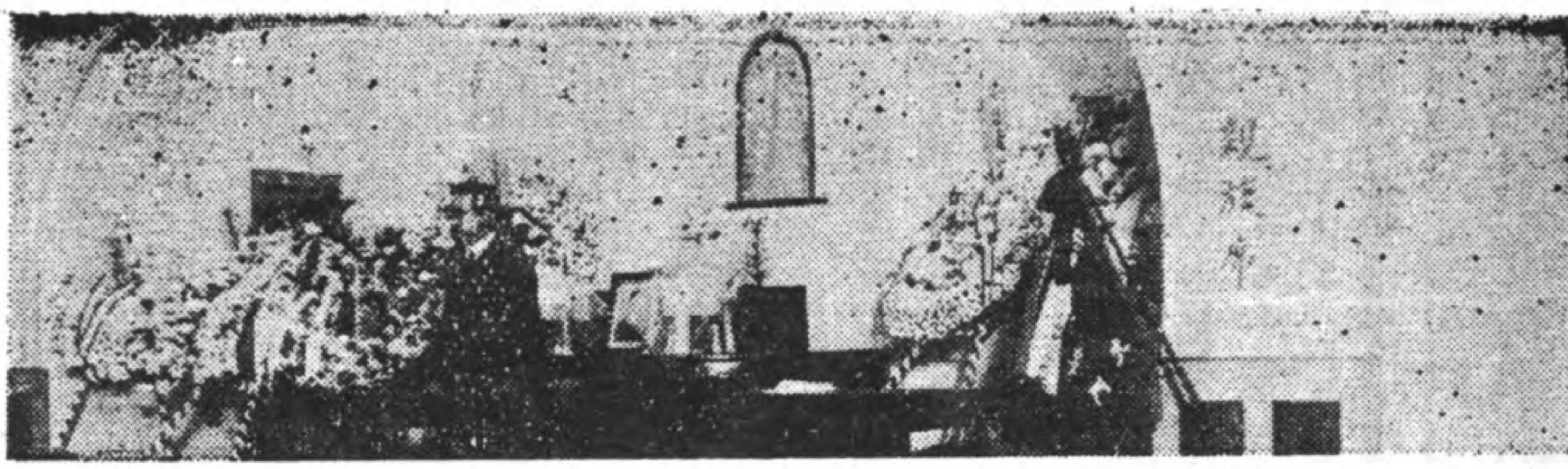
四百八十名の議員の内二百七十幾名といふ絕對多數の贊成署名をえてゐたのに、どれも問題が、直接の利害關係がない限りは賴りにならないことおびたゞしいへな〳〵腰の贊成者であつたから、最後まで黨籍を投げ出しても鬪はうとする代議士は一人もなかつたのであります。外では熱心なる輿論の後押しがあり、すでに先進諸國では試驗ずみの題目に屬する公民權であるのですが。

それにしても考へられることは、斯くも當然の權利を婦人が獲得しやうとするのにも拘らず未だ〳〵この運動が全婦人層の要求にまで擴大されてゐないといふことであります。といふことは又、婦人がその日常の生活上で母として及び家婦としていろ〳〵希望してゐることどもの如何に實際政治と密接不離の關係にあるかについて未だ〳〵自覺してゐる者が非常に尠くないことであります。われ〳〵の日常の生活問題を離れてどこにわれ〳〵は政治を見出しえませうわれ〳〵の日常生活の福利增進問題以外、どこに政治を語りませう。婦人はもつと〳〵足もとの問題について眞劍にならなければなりませぬ。自分たちの生活當面の問題を中心にして、政治家を政治を、ぐん〳〵引ずつてゆくまでに有力にならなければなりませぬ。

山本宣治代議士を悼む

最近、東京市では二つの全く相反した力が具體的に動いて、われ〳〵に暗示多い日を齎らしました。

その一つは、市會議員の選擧で、無產政黨から出た候補者が三人も最高點で當選をして、新興階級としての無產者の、はつきりとした意志を——即ち、もう民政黨や政友會、その他の既成政黨の連中にこれ以上われらの政治をまかせておくことは出來ぬといふ新しい意義を以て大多數の者の投票が無產政黨の候補者に集中した



山本宣治代議士告別式

事でありました。

その同じ日に、神田の旅館の一室で、われらの選良として全無産階級の信頼の的であつた山本宣治代議士が、兇刃に斃れたのです。三人の子の父親として年齒わづかに四十二の山本氏の死は、それだけでも殘念なことの限りであるのに、氏が無産政黨——中でも、最も戰鬪的な前衞の支持に立つてゐる代議士であるといふことのために、反動團體七生社の一味にたほされました。一人の山本代議士を生むためには幾萬幾十萬の無産者の熱い々々呼吸が血に彩られて繋がれてゐます、全國の無産者はおそらく一山本代議士の死と、これを見ないで、わが手、わが眼を抉りとられた思ひで悲憤の涙にかきくれてゐることでありませう。それと同じ様に、山本氏を殺した力も、單に一兇漢黑田某にあらず、擡頭しやうとする無産階級の鼻先きを挫がうとする大きな反動の魔手の一閃に外ならないものであることを誰が氣づかないでゐられようか。

然し、力強いことには、かうして一事一變を踏み越えるごとに、人々ははつきりとそれ〲の置かれてゐる現在の地位について誤りのない見方、考へ方、動き方を知つてゆくのであります。こうして時代の凡ゆる方面に深こくに刻まれて行く階級的な二つの立場の對立を知れば知る程無産者として、今日のこの不公平至極な世の中をもつとまんべんなく地ならししてゆくために協力したいものであります。

黎明期の支那婦人

馬伯援

隣邦支那は今革命の生みの苦しみに呻吟してゐる。激動と陣痛とが絶えずその民衆生活を席捲して或は流血の嵐の中に、或は多艱なる建設の途上に、避けがたき犠牲と、苦痛とを満喫しつゝある。そのたゞなかにあつて支那の婦人は、そもどんな影響を看取してゐるであらうか、またどんな適應――周圍の諸關係に對して――をしてゐるであらうか。これはわれわれ日本の婦人としてどうしても研究し批判しなければならぬ問題である。また多くの男子は戎衣に血塗つて南北に馳驅し或は至難なる開拓建設の大任を果たして現代を特徴づける程の大業績を殘してゐる間にその國の女性はどんな役目を分擔し、どんな風に行動して來たか。これも等しく理解し再考するを要する問題である。以下記載する一文は、我社同人のためにされた馬氏の談話の筆記である。その内容が極めて正確な事實に觸れ有力なる斷定を含むものであることは玆に贅言するまでもない只匆卒の筆記につき或は同氏の眞意を誤り傳へむことを恐れる次第である。因みに馬伯援氏は中華キリスト教青年會總幹事である。

支那の婦人運動は、婦人の自由獲得の運動としては、もう澤山だ、或はやり過ぎたと言ふ感じがするのであつて、その結果から見ると家庭は多く破壞され、自由戀愛と自由離婚とは、一切の傳習と歴史とを無視して極端に行はれてゐるの感が深い。かやうな問題を統制し、調節する法律上の諸決定、社會的新秩序なるものはまだ出來上らないのであるから問題は勢ひ極端に行かうとする傾向がある。

これは、一方から考へると、極端なる婦人壓迫に對する反動である、と考察する人もあるやうであるが、自分の見解乃至支那の事實はそれと著しく相違する。成る程、法律的に見れば支那の女性の位置は極めて卑かつた。けれども法律的にその位置の卑いことは直ちに實際的にその位置の低いことを意味するものでない。否寧ろ社會的に、經濟的に、家庭的に彼女等の有つ勢力は、往々にして男子の勢力を凌いで來たこ

ども決して少なくはないのである。古くは則天武后の話、近くは西大后のこと、これは決して一二の限られた場合、限られた人にあるのではなく、支那の家庭の總てに於て才能ある婦人、聰慧なる婦人は夫に代つてその家長的全權を握つてゐる場合が甚だ多いのである。

事實昔から天分才能ある婦人は多く輩出し、文學に詩文に繪畫に、教育に、極めて重要な貢獻をなしてゐることは、枚擧するに暇がない。つまり、法律的には婦人の位置は低かつたけれども、それは事實には少しも運用されず却つて家庭でも社會でも男女間に於ける自由競爭は完全に行はれ、優者適者はその性別を問ふことなく、上層を占めて來た傾向があつた。併しながら支那婦人にはたゞ或る一つの點で惡い因襲が覆ひ被さつてゐた。それは異常に、專制的なる父權、母權である。總ての娘等は、その配偶者の選擇に當つて決して自己の意志感情を挾むことが出來なかつた。從つて親と親との間で一切の婚約は取結ばれて殆んど總ての男女はその決定に盲從した。勿論その全部が悲劇的結果に終る筈はないし、或は却つて悦ばしい結果を見ることも多かつたのであるがその一半に於て遺憾なき不自然、不合理性を暴露することもまた餘儀なき次第である。かゝる不當に對する抗爭として、婦人解放運動は先づ出發したものであつて、婚期を控えて煩悶し苦慮してゐる男女に向つて自由に結婚し自由に離婚することを慫慂して異常なる事實の展開に導いたのは當時の共產主義者であつた。

□

一昨年の冬、急進主義者の一時的な勝利とともに突發的に表はれたのは、結婚、離婚の大颶風であつた。娘等は文字通り深窓から引出されまだ見ぬ世界を引まはされたばかりでなく擅に結婚し擅に離婚し性的自由なるものが甚だ不自然なる放漫性を有つて若き男女の骨髓を溶解したのである。その結果がどんな狀態になつたかは、事實を擧げて說明するまでもない。夥しき病毒の傳播となり惡習は普遍化され、ともすれば支那の精髓を奪ひ行くの觀があつたことは事實である。

その對應的な現象として極端な父權、母權は緩められ、多くの知識階級の父母達は先づ社會の魁をして結婚合理化の問題を考へ出した。今日に於ては奧地の農民は暫く別として一般には稍々進步的なる結婚觀が風靡してゐるかの感が深い支那の家庭に於ける妻の位置は既に高まつてゐる、從つて家

庭に於ける娘、乃至婚家に於ける嫁の位置が高まるならば既に一應なる自由は確立されるだらうことも勿論である。

□

支那では婦人勞働問題なるものはまだ發生しない。婦人の職業範圍は甚だ狹少であつて、教師、書記、事務員、商文係等々の職業部門にその門戸を開放してゐるに過ぎない。勿論勞働婦人殊に筋肉勞働婦人の出現が一般的問題となるのはまだ相當時間の隔りがある。從つて彼女等の勞働問題に對する關心は甚だ局限されたものたらざるを得ないのである。寧ろ問題は今日支那の婦人が餘りに働かない、餘りに勞作を厭ふ傾向を如何にして克服すべきかにあるのだと思ふ。

支那の中流以上の家庭婦人が如何に多くの下婢を使用し怠惰遊逸に日を送つてゐるかは到底日本の婦人と同日に語るべきものではない。彼女等に對し如何にして働く習慣を作らしめ勞苦を厭はざらしめるか。それこそ支那にとつて重要な問題であると思はれる。

支那の婦人運動が兎もすれば上滑りをなし單に戀愛結婚の問題を中心となつて旋回し、輕薄なる時潮に投ずる所以もまた政治問題以外に歩みを進め得ざる所以も支那に於ては婦人の問題としての勞働、經濟、教育等々の問題が未だ判然と定立しないためと一つには婦人運動者の多くが金權者流に屬するものであり、無産婦人は教育程度低く或は皆無であつて、自分の問題を取上げて叫ぶ所にまでは至つてゐないためである、教育の普及と革命の合理的進展とは、今後支那無産婦人の下よりの叫び、直接の要求が澎湃として起るだらうことも充分想像される。

□

次に廢娼問題に就て一言すれば、娼妓は支那に於ては知られる如く禁止された。これが廢止に必要な、法律的、行政的手段は講ぜられてゐる。しかしながらその效果如何は相當問題であつて今日賣春問題の本質をなす、經濟問題、習慣、性格等の問題に對する徹底した對策施設は勿論必要であり、それなくして廢娼の徹底を期することは極めて困難である。

娼婦はその業を失へば直ちに何等かの生活の道を立てなければならないのであるが、習慣は彼女等をして働くことを不可能ならしめてゐる。清朝の末路にその特權階級の子女逹が娼妓になつた數の極めて多かつたのも一つは彼女等の生活能力の問題であつた。今日に續いた娼婦の大部分も經濟的には

殆んど生活無能力者であつた。從つて廢娼問題は、法制的、行政的問題としてよりも、經濟的乃至習慣、性格の改造の問題である。私は支那の政府及社會が斯かる方面を充分理解して廢娼の前途を光明あらしめることゝ確信する。

□

斯うした大極的立場に觀點を置いて見るならば大衆としての支那婦人運動はまだ萠芽的である、今後大いに生長させなければならない。現在閑却されはゐる諸方面、諸分野も開拓しなければならない。殊に經濟生活の問題に關するその理解と努力とを我々は期待してゐるのであるが、前述するが如く支那の婦人團體は主に政治上、狹義の政治的問題のみを對象として行動し、或はその解放運動なるものは單に戀愛、結婚にのみ集中されて來た。これは謂はゞ教育ある有閑階級婦人のみの運動であつたためで、支那の訓政期に於ける諸施設諸運動の展開と相俟つてやがて眞實の婦人運動、婦人社會運動が、澎湃として興隆するだらうことは、明白に豫知し得られる問題である。承れば日本の婦人運動も、遊閑階級の氣まぐれなる要求から出發したものと、一般無產婦人の切實なる生活要求から出發したものと對立してゐるとのことであるが、自分は恐らく支那の將來に於いても同樣なる傾向がはつきりと表れるだらうことを充分豫見出來るものである。

支那は現在、訓政期の段階にある、從つてその政治的諸運動は、一般民衆の政治的、社會的訓練を中心として旋廻されてゐる。やがてこの訓政期が終つて憲政期の段階に入つたならば、婦人運動も諸多の民衆運動に於けるが如く華々しき躍進を遂げるであらう。從つて現在の婦人運動には、その準備的諸問題が重要なる意義を有つて提出されてゐる譯である。

□

尙これは直接婦人運動に關係はないが、現在の支那有識靑年男女は兎角、頭の教育だけが進みすぎて、實際生活としての生產事業、勞働生活の訓練が缺けてゐるので、今後はさうした方面の實際運動が興らねばならぬ、殊に彼の尨大な資源である農耕地を開拓するには、消費組合的精神による、農村靑年學校のやうなものを奥地の至る處に興して、男女靑年の頭腦を教育すると同時に、實際勞働の訓練を授く事が目下の急務であると思ふ。此點に於ては先覺者である日本人の指導を大いに希望してゐるのである。(文責在記者)

家庭問題

家庭の使命

山田わか

家庭の意義を内容的に見るならば、第一、家庭は老若男女を含んで居るものです。從つて家庭そのものは絶えず新になつて行きます。家庭が國家の基礎となつてゐるので凡ての社會制度の構造に非常な勢力をもつてゐる年長者と年少者の關係や、又は、平等と云ふ關係は、家庭内の各自の關係に於て最もよく發達します。

第二は、家庭は社會秩序を保存する作用をもつてゐます。なぜなら、凡ての種類の社會的財產、即ち、文化を現時代から次時代に傳へる重要な仕事は家庭で行はれます。言語を始め、思想、政治、宗敎、道德の標準に關する信仰、藝術に對する趣味、その外知力上の一切の事柄も皆、家庭を通じて次の時代に移されます。

第三に、家庭は社會進步を增進させる目的を持つて居ります。家庭は社會に於ける利他主義の製造所であります。社會の向上は殆ど全く共同によらねばならないものでありますが、その共同は、利他主義に立脚しなければ各人が滿足するように行はれないものです。そして、その利他主義は家庭に生れ、家庭で養成されるものでありますから、家庭が社會進步のおもなる源であるのです。家庭生活があらゆるものを社會化する學校であるのです。家庭の全員が一所に集まつて食事を

する時に、こゝに一大社會化の要素があるのです。

現代の産業と家庭の關係は重大なる問題、恐らく現代に於ける最大なる問題でありませう。昔の産業は、家庭を中心とし家庭に從屬してゐたものです。が、現代の産業は昔のその家庭を突拍子もなく大きく擴げたものでありますが、その結果は産業が家庭から離れたのみならず、家族の結果を緩めてしまひました。つまり、事實上、家族を解散したようなかたちになり、家庭の意義を沒却しようとする傾向になりました。そしてこれは容易ならざる社會上の禍の根源とならずには居ません。

そこで、健全なる社會の要求は、どこ迄も産業を家庭に服從させることです。今日のように人が産業に服從するのではなく、産業を人に服從させ、しかも、その人の家庭の幸福を增進させるようにならなければならないのです。一時、一勞働者の家族は、その勞働者の雇主とは何等の關係も存在しない、であるから、その雇主はその勞働者の家族に對しては何等の責任もないと云ふような議論も立てられたものですが、併し、これは全然勞働を物品と見て、産業と家庭との關係、及び家庭の社會的意義を見ることの出來なかつた僻見であつたことに、今は誰でも氣が付いて居ます。

家庭の意義、及び其の使命を見ることの出來ない結果は、又、婦人を家庭の外に追ひ出します。そして、私がその非を鳴らして家庭婦人の位置の重要なることを高唱します時に、それでは婦人の個性をどうする、人としての婦人の胸に燃える眞純な希望をどうする、と云ふ樣な私の意見に反對する聲も聞えます。なるほど、今日迄の家庭に於ては、婦人は一家の眞の意味の主婦ではなく、家長なる男子に從屬してゐたのですから、婦人の個性も、婦人の胸に燃ゆる希望も全然壓迫し盡されて居ましたが、併し、これは家庭そのものゝ罪ではなく、家庭內の家族間の關係が間違つてゐたからです。人としての價値を備へ、又、人としての威嚴も見識も確立してゐる婦人は、藝術に於て、學問に於て、又は、職業に於て、その個性を發揮し得ると同じように、その家庭に於ても個性を發揮し得ると、私は信じます。

實際、自覺ある婦人は、全然、男子の家である家庭內の一つの道具となつて、自分の個性も希望も窒息せしめられるような空氣の中に我慢出來るものではありません。ですから現代の男子、並びに、社會は、人類進歩の過程に添うた要求に

従つて、家庭婦人の重要な位置を認めて相當な尊敬を家庭婦人に拂ふか、さもなければ、家庭婦人に對する今迄の態度を持續して、そのために多くの有爲な婦人を家庭の外に飛び出させ、幾多の悲劇を生み出すか、二つに一つを取らなければならなくなつてゐます。

勿論、私の家庭婦人に關する意見は、一般婦人の生活の原則を明かにしようとするものであつて、偶々家庭婦人として適して居ない、そして、他の道に適してゐるし、又、それを好むといふ婦人の態度を非難しようと思ふものではないことをこゝに附け加へて置かうと思ひます。

家庭婦人よ目覺め樣ではないか

吉村小芳

或る婦人識者は云つて居られる「現在の婦人參政權運動やその他の婦人運動がある特殊の婦人卽ち、時間の上にも、金子の上にも、氣持の上にも餘裕のある人々、云ひかへてみれば比較的上層婦人智識階級婦人に依つてのみ行はれて居て、一般の婦人大衆がまるでそれらの問題に無關心で居る限りは、折角得た權利も猫に小判のそれの樣で仕樣がない。もつと〳〵毎日の生活に餘裕なく追はれてゐる婦人の大多數を占めて居る人々の生活のまつ只中から叫び上げられて始めて效を奏する。」と。大贊成。

だが悲しいかな、この事實をどうしやう。婦人の大多數を占めてゐるといふ人々の日々の生活を、私といふ典型的な家庭婦人に先づ見てみる。朝から晩まで家庭的雜事に追はれ、何の餘裕もないといへばいへる。高價な文化的設備はとても利用する事が出來ない身分なので、家賃の安い郊外の貸住宅での非文明極まる生活は全くお話しにならない。朝起きて先づバタ〳〵と七輪に炭火を起こし、ポンプの水を上げて然かも濾槽を通してチョボ〳〵と出て來る水の溜まるのを待たなければならない。それから朝飯、晝飯、夕飯の仕度――二人の子供とその父親と一人の寄偶知人の世話――掃除――縫仕事――御用聞きが來る――買出し（安いものを買ふ爲には十五六丁もあるマーケツトへ行く〳〵）――時には、中々はいそうですかと歸らない借金取りの云譯――來客――子供が泣く――おしつこした――

おつぱい――。チンドンヤが來る、見度いとて泣く――しばらく見せる。直ぐに夕方だ。おつぱいやつてゐる間と、晝寢の添乳の時に新聞や回讀雜誌の拾ひ讀みが辛うじて出來る位だ。××協會、××社から送つて頂いた機關誌を今晩子供を寢せつけながら讀まうと思つて枕元へ持つて來て置くのはよいが、二三頁讀んでゐる中に一日の煩雜な家庭勞働に疲れ切つてゐる身體は、いつの間にかぐつすり寢てしまふ。子供の泣聲に目が覺めると一時だ。

こうして一日が來て一日が暮れて行く××研究會、××懇談會に招き狀を頂いて、萬障くり合せて十度に一度位行くといふ日は大騒ぎである。

この外、目に見えない主婦として、母としての細かい心づかいがどれ程大きいか分らない。まして商業家の主婦の過勞と心づかいは私共の豫想外であるに違ひない。

こうした生活を送つゝある一般家庭婦人は、どんなに智識慾、向上慾に燃えて居ても事實上に於て到底それを滿たす事は出來ない。そんな餘裕を見出す事はほんとに困難である。そしてこれらの婦人の數がどんなに多く、婦人の大部分と云つてもよいといふ事を私は私の周圍に依つて知つてゐる。

そこである婦人識者はこうした日々を送つてゐる所謂「家庭婦人――子供や家庭的な雜務におはれて餘裕なく暮してゐる大多數の家庭婦人が、その生活のまつ只中から參政權を要求して出かけて來るまで、その獲得を待つてゐる譯に行かない。」といつて、勇敢に婦人運動の第一線に立つて活動して居られるのは全く感謝に堪えない。事實これらの積極的、進取的婦人も必要であるのだ。

ここに於て、私共家庭婦人として眞面目に反省と自覺しなければならない。そしてもつと手近かな方法で、實際的な婦人運動をなし得る唯一の勢であるといふ事を自覺するならば煩雜な家庭勞務の片手間に充分出來る事が多々あると思ふ。「男子に寄生してゐる不勞無力の婦人」であるからと云つて決して自卑してはいけない。卑下する前に先づ、與へられたる使命と責務の大きさを思つて自重しなければならない。何とかして此の子をよく育てたい！ この母としての願ひは、決して利己的な單純な願ひとして聞きのがすべきものではない。人類の母として自ら與へられて居る尊い使命を果たさむ爲の切なる希望である。

自分自身を自覺すると同時に、夫を始め、周圍の男子の、因習的な間違つた婦

人觀を徹回するべく努力しなければならない。

ところが、女にして子供を持ち、煩雜な家庭勞務を負擔し、姙娠、分娩、哺育の母性としての重大な働きをしてゐる者を、經濟的な生産行爲をして居ないばかりに、徒らに不勞無力の婦人としてこの實際運動には不適任とさへ婦人自ら許して居るのでは、尤もの樣で、矛盾でもあると思ふ。この煩雜な家庭勞務も、その主婦に依つて行はれる時は不生産に見做なされ、その主婦は不勞無力扱ひされ、一躍女中と名付くものに依つて行はれる時は立派な有資格の生産者になるのだから矛盾でなくてなんであろう。

許されたる範圍内に於て、常に智識慾と向上慾を有し萬年一日の如き不規則な家庭勞務を、科學的に頭を働かせ、餘裕を作り、實際的婦人運動家の名に恥づかしくない生活を開拓して行く事に依つてその周圍の男性の正しい婦人觀を確立させるのに努力するならば、表面的、抽象的な婦人運動にも勝る唯一の婦人運動である。

妻！虐げられし者よ

竹内てるよ

現在の社會制度の下に押しひしがれ、仕方ないあきらめを抱いて墓穴にまでゆく人々の多數、そのみじめないく組かの家庭生活の中で、更に反逆のない夫に隷屬してゐる妻、實に女性への專制は二重にも三重にも重ねられてゐて、弱い私達の僅かな身動きをすら許さない。私達の多くは、その一生の間にたゞ一度の眞實をさへ生きることを拒絶されて來た。

父母の手から夫の手へ――現在の社會にいかに多くの妻が、みじめな日常を、愚痴と、迷ひとあきらめの中に生きてゐるか。あなたの母――私の母、こゝにかしこに何の生甲斐をも持たない多くの妻が存在してゐる。

彼女達の一日中にあるものは、夫の暴力とほしいまゝの性慾、育てるに困難な多産な子供達、のしかゝつてくる貧乏世帶のやりくり、彼女達は一生人間の何であるかを知らない。又何であるべきかを知らない。金持となつて生活の苦勞をぬけることを唯一つの切望として不合理な制度の下に働いても働いても貧乏な夫の

不平と怒りとを正面からあびながら、時たまの駄菓子の買喰ひや、井戸端會議を唯一つのはけ口として生きねばならないそこにあるものは、そねみ合ひと、けなし合ひと、露骨な物質崇拜のあけくれである。

これでいゝのか。これを正しいと云ふことが出來るか。否！　私達は立上らねばならない。立つて鋭い檢討を自分達多くのプロレタリアの生活に、更にあるがまゝの現社會になさねばならない。

あなたの夫はあなたを人間として認めてゐるか。あなたの精神生活についてふりかへることがあるか。二人の生活に連帶性を持ち、家庭を共生の社會生活への結合として、自由と平等とを知つてゐるか？　あなた達の夫は、自分のわがまゝのために、あなたを打なぐることはないか！　二言目には女のくせに生意氣だとけなすことはないか。家庭を自分一個のものゝ如くにして、あごであなた達をこき使ふことはないか、更に物質の勞苦をまであなたの肩にかけつゝ、男であるといふことでえばつてゐるのではないか。

もしそうであつたならば、先づあなたはあなたの家庭生活と、そこに横はる一切の問題を解決すべきである。

何故、私達は、このような生活の中に一生を送らねばならないのか。あくせくと夫と子供とのために働き、年老ひて死に場所をさがすようなみじめさの中におかれねばならないのか。答は、たゞ一つ私達はひとりあるきが出來なかつたといふことによるのだ！　封建的な道徳が私達女性を壓服し私達の中なる自覺を痲痺せしめ更に現代資本主義社會の發達につれて生活の切迫がもたらす人間と人間との離反、すべての自由と解放の喪失少數の男性の手にまかせた間違つた制度によるのだ。私達はも早、私達自身の解放を少數ブルジュア婦人達の外見的社會運動や、おざなり公民權運動にまかせておくことは出來なくなりつゝある。長い間、私達は一人で生きてゆくことが出來ないために夫の暴虐を忍ばなければならなかつた。併し、私達は、たとひ路上に凍え又餓死したとしてもこゝで人間としての再生をためらつてはならない。

妻よ、虐げられし者よ、あなたの夫があなたを人間として認めなかつたならばあなたは夫を去るべきである、よしんばどのような悲慘が結果されようとも！よつて來る苦痛のために不正なるものへの反逆をためらつてはならない。あるがまゝの私達への正しい追求がそこに殘してゐるものは、政治的男女同權でもなく勞働賃銀の同等でもなく、戀愛問題、職

業問題以上に、家族制度の問題、母性の問題であらねばならないと私は信じる。

單なる行きがゝりの結婚や、生活手段である妻君業をすて、外見のための良妻をすて、人と人との結合を家庭生活の根底としなければならない。飼はれたる妻おさんどん兼おめかけの時代をけつて、進んで全人間の自由解放の戰列にふみ込み、新しき社會の建設にたづさはらなければならないと思ふ。

來るべき時代への運動は、ひとしく男性と女性との團結によらねばならない、人間本能の中でも最も重大である生殖の役割において母性としての責務を支持すべき私達は、知識的及び生活基礎への確立を努力しなければならない。最も生活に密接なる家族制度について、よりたしかなる自覺をつかまねばならない。

言葉の上の女らしさをすて、眞の女らしさに生きる日こそ、妻といふ名に冠せられた暗い不自由や、忍苦や、絶望にかはる本當の意味の妻及び母があるのである

更にそこに芽ばえて成長するものこそ手前勝手な資本主義制度にこびることのないはつらつたる人間らしい人間であらねばならない。

あゝ私達の成長はどんなに待たれてゐるか、私はそれを涙をもつて思ふ。

しかも現在過渡期にある私達は、負ふべき多くの苦惱と悲哀とそしてたへざる努力の中に正しき戰ひを戰はねばならないことを！

職業婦人と家庭工業

北村兼子

上　風紀問題と家庭病

學校出の婦人がそのまゝ結婚生活に入ることは二つの理由から躊躇せられてゐる。その一つは學校で學んだことを實社會につかつてみたいといふのと、他の一つは寄生々活に眼醒めて生計のために働かうとするのとである。これを要約すると、ある階級を除いては夫一人の手で一家の經濟を支持するに足らないから、家庭生活の前衛として収入を得、併せて新智識を得たいといふのである。

本年度の女學校卒業生が申合せたやうに職業婦人としてめざましく進出するに

ついて、更めて社會問題として論議せられるやうになつた。ある人はいふ。婦人が街頭にうろつくことは風紀上にもよろしくない又た家庭を冷たくするから、家庭にゐて手内職に從事せしめるがいゝ……と。

それを尤もらしく說き出す老人の顏をながめて、私たちは噴き出さずにはゐられない。情事關係は相依的のものであるから婦人ばかりで風紀を亂せない。婦人の外出が惡いなら男子の外出もよろしくない。男女七歲にして席を同じうせずなら、婦人は地階に栖んで(もぐら)となり男子は屋上にとまつて烏となれ。

若い婦人が家庭に鎖ぢられてゐると靑春の氣が過度の沈滯固定に陷つて、いつか外出がおつくうになり、交通恐怖の觀念が起り、新智識に刺戟される機會が少いため記憶力が減退し、自己の手腕に自信がなくなり、あるものは無暗に衛生に注意を拂ひ過ぎて病氣を恐れる餘り心臟の鼓動が氣にかゝり、皮膚の低抗力が弱いため、すぐに風邪をひく。ちよつと頭痛がしてもぢきに檢溫器を腋にする。あるものは他人を危險視して心からの親しみがなく打ちとけた友だちがなくなり、何でもないことに警戒する。あるものは疳性病みとなつて極端に淸潔を好み、一日に三度も四度も室内を掃除する。あるものは餘り深く考へ込むために腦細胞を疲れさせ却つて大局の智惠を葬つてしまふ。すべてに引込み思案になつて體内のホルモンが少しづゝ破壞されるから神經の末梢を細く光らせ少しのことにも敏感となる。活動寫眞を見ても二三日は頭に印象が殘つて離れないといふやうな婦人は、すでに一種の家庭病に罹つてゐるのである。これは家庭に閉ぢ籠められた若い女性にしば〳〵ある現象である。職業婦人には一種特異の外的病氣が起るといふが、家庭病に比べると何でもない。

職業婦人は世間の廣いところをみて男性の晴々した心もちを取入れるから陰鬱な氣が發散する機會が多い。街頭に立つて生存競爭の活きて動いてゐる空氣を呼吸するから家庭婦人に比して智識見聞において優つてゐることは何人も否めない。

下　社會の共同責任

職業婦人を家庭に呼び戻して安業に養つてやらうといふなら聞こえもするが、これを家庭へ追ひ込んで手内職をせよとは若い婦人の心理を解せない男性のいふことであつて明かに職業婦人本來の希望に背いてゐる。そればかりではない。家庭工業とか手内職とかの道は資本組織經

済機構によつて塞がれて、今日では智識又は技能を要する手内職は殆んどなくなつてゐる。

高等な家庭職業として醫師、美容術師藥劑師などが、その例に擧げられてゐるが、それとても資本の件はないものは家庭を離れて通勤せねばならぬ。

食堂の炊事係も料理屋の板場もホテルの結仕も洗濯も裁縫も染紋も刺繍もアナウンサーも職業的に男子の領域で、それがだん／＼繩張りを擴げ出した。婦人の職業も白帽からエレヴエーターから辯護士から男子の領土に侵して行かねば立瀬がない。すると男子は繩張りを荒らすといつて抗議をするが、男子の收入不足を補ふがために婦人が働く、その婦人の働きが男子の職業を脅すといつて、怒つても私たちにはわけがわからぬ。

婦人が働かねば立行かない經濟機構に對しては社會が責任を持たねばならぬ。婦人が働かねば立行かない家庭生活には男子が責任を負はねばならぬ。大都市になるほど婦人を働かしめる。社會は共同責任をもつて彼女らのために途を開いて通ほすべきものである。

男子のみが働く家庭では悋氣するものは妻である。夫婦共稼ぎの家では悋氣するものは夫である。嫉妬せられるひのは勝利者であり、征服者である。一度職業婦人として働いたものは征服者の味を忘れぬ。それが男性からみた家庭の冷たいといふ一つである。

私たちは職業婦人を尊んで家庭婦人を卑しむのではない。職業婦人の弊害も毎日見せつけられてゐる。家庭婦人の天職も決して考慮の外には置いてゐないが、同じく女性といつても、この二つは使ひ途がちがふ。形は似てゐても洋服箪笥とお佛壇ほどちがふ。思想に尊いものと實用に間に合ふものとは一しよに論じては文脈が亂れる。

こゝまでくると、結論は簡單になつた家庭を溫かにして收入を高めよ、と、それは職業婦人に對する難題である。

◇

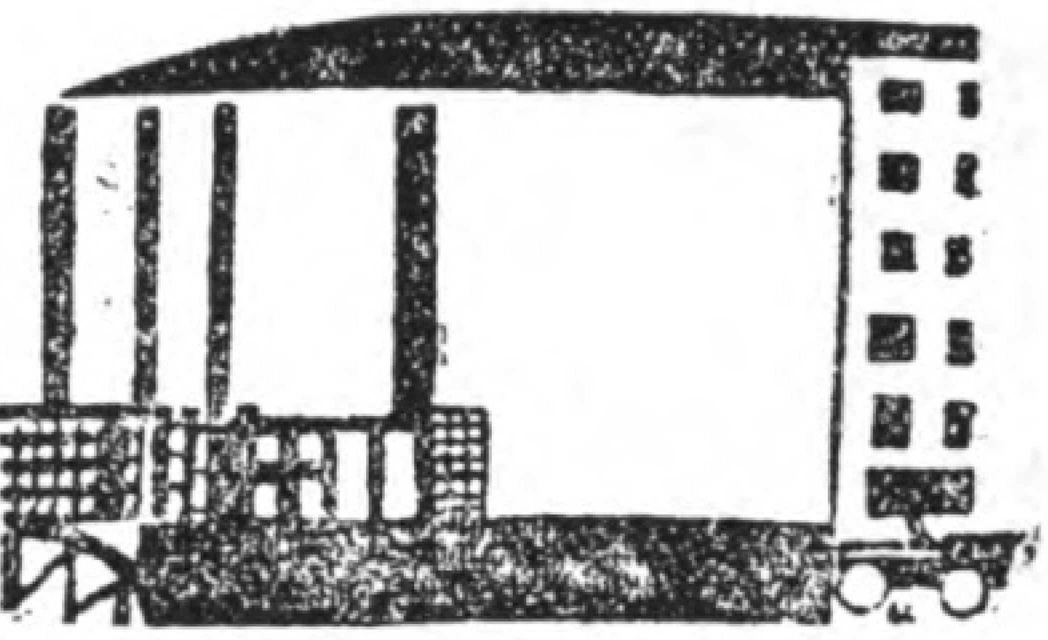
奥むめおさんは方々で、いろんな人の奥様と早合點されて笑話のタネを撒いてゐるのですが、結局奥さんの奥さんの通り名でとほつてゐます。ところでゴ良人榮一氏の曰く、

「すぎたるは及ばざるが如し、と云ひましてね――ウチの女房には困るんですよ。」

◇

◇夫婦愛のこまやかなことに於て、典型的な山田わか女史御夫妻の生活振りは、老いも若いもの嘆賞の的ですが、先生はあの二十幾貫もあろうといふ大兵のわか子女史を摑へて、宛も九つか十の幼な兒に云ふやうに、

「風邪をひくよ、今日は少し寒いから早目に濟上げて歸つていらつしやい」……



現代婦人と榮養文化

佐伯矩

現代に於て著しく發達を遂げた學問としては榮養學は最も注目すべきものでありますが、榮養學は直ちにお臺所のことに關係してゐるので、我日本の女性として最も注意して貰はねばならないのであります。それにはまづ榮養學とは如何なるものかを知らねばなりません。

榮養學はまだ完成された學問ではないのですが特に興味のあるのは日本で最初に手をつけた學問として立派にその存在を諸外國に示して恥しからぬものであることを信ずるのであります。處がこの榮養學を最初認めたのは日本でなくて西洋であつたのは甚だ皮肉な話と云はねばなりません、しかしまだ大學あたりに榮養學といふものがないのは遺憾とする處で

我國には、世界に誇るべき榮養研究所があるのに、そこにて行はれる研究について一般の婦人が無關心なのは殘念なことです。もつと榮養問題に眞劍になりませう。

鰊の將來

八木秋子

春の四ーから五月にかけて北海道を旅行するほどの人は、小樽近傍の海邊で、車窓から眼の下にみるあの山のやうな鰊の洪水におどろきの眼をみはるでありませう。夥しい漁夫のむれがシヤベルをもつて無雜作に、かけごゑもろとも銀鱗のひかる小山を片つぱしからくずして箱の中に投げ入れる。と箱は重々しくたくましい肩に擔がれて、あとから〳〵と運び出されてそれが長くつゞいて行く。

一方では莚の上に陣どつて、素早い手つきでサツ〳〵と銀色のを身欠きにつくると、女房達が、なにか罵りあひながら無雜作な棚の細木へ簾のやうに懸けつらねてゆくあの光景は、全く誰しも驚異にあたひするものでせう。何ろ、疾走して行く汽車の窓にその腥いにほひが襲つて來て、しばらくは着物にまで浸みこんでゐるかのやうに苦とわ

すが、東京には榮養研究所があり、ロシアにもオランダにも又アメリカやイギリスにもそれが設置されて今や世界的にその研究が行はれるやうになつたのであります。先般ベルリンで國際的の榮養聯盟を作る事になり、交換教授を初め、日本からは第一に私が行きました。

◇

斯やうに榮養の研究は盛んなるにも拘らず、日本の家庭では實際的に榮養學的にお料理が扱はれてゐるかと云ひますと殘念ながらそれが行はれてゐないのであります。これは學問を實際生活に應用してゐない證據と云ふべく誠に遺憾な事であります。それでは何故此やうな狀態にあるかと云ふと、現代の日本婦人は文學的には非常に趣味が深く、同時にその素養も相當深いにかゝはらず科學的にはそれが劣つてゐるからによるのであります、しかし榮養的御料理も教へられてやらない譯ではありませんが、それを一度失敗するともう二度としないと云ふ缺點があるために、榮養學の發達の割に一般的には應用されないのであります。

それでは榮養學はどうして必要であるかと云ひますと、例へば昔から大根おろしは大へんに消化を助けるといはれたも

が體を厭はず嗅いで見るほどなのですから。

北海道はまことに鰊の國といつても差支へありません、毎年春から夏にかけて、一億三千萬貫からの鰊が函館、小樽、釧路、根室の港をはじめとして余市、岩內、留萌、增毛などの濱へ一時にどつと押し寄せて來るのでその時節の海岸のそれ等の濱邊は戰爭のやうであります。當局では鰊の總價格が二千萬圓といふてをります。が然しこれは數字の上だけの話で、實際はその三分の一位なのです。何故かといへばその夥しい獲れ高の約八割、一億萬貫以上は肥料につぶされて鰊粕とせられ、生鰊の一尾一錢といふ推定價格の十分の一にも達しないねだんに變つてしまふのですから。それ故道廳の水產課ではいまこの鰊の處置と利用に力を注いでゐるのは當然の話で、北海道水產試驗場が、ほとんど全力を擧げて鰊の利用方法の研究と一般への宣傳のために努力してゐる事も頷かれるのです。

鰊はそのやうに豐富に獲れて、我國水產物中の白眉とせられてをりながら一般の人は、昔から鰊といへばよほど下等な魚のやうに考へていまなほ、問題にもしてゐないほど冷淡な態度でをりますが、それにひきかへ獨逸、英國、露西亞などでは非常に好んで食べるので、英國の家庭では朝食のテーブルにはなくてならないものとされてをりますし、獨逸では馬鈴薯と共に國民食糧といはれて全國民のたべる魚の六割は鰊である程ですから、春先きのころ伊太利から來る赤い小さな馬鈴薯と共に鰊のはしりをば、丁度江戶ッ子が高い金を拂つて初鰹の味をたのしむやうに爭つて食べるのださうです。從つて料理法もたくさん研究されてゐるわけです。

兎に角獨、英、露國の人達は昔から鰊は此上もない榮養食品であるとの深い信念をもつてゐるので、內務省衛生局や北大や水產試驗場の

のでありますが、それはヂアスターゼがあるからだといふ事が學理的に證明されたのですが、榮養學は先づ右のやうな事をだん／＼深い所まで研究して行つたと言つてよいのであります。榮養學を先づ養理、調理、食政の三つに分けて、養理は食物が體の中で如何に働くか、體は如何にそれを利用するかを研究する、次に調理は實際的に如何に食物を取扱ふか、最後の食政といふのは食ふ爲めの政治――即ち問題とされてゐる人口食糧問題にまで及ぼすのが目的なのであります。

　此三つを引つくるめて學問と實際生活とを結び付けるのが榮養學なのでありますが、なほ先に述べたやうに社會的な問題即ち食糧と政治とどんなに深い關係を持つて居るかを説明すると、吾々人間社會では生活の爲めには食物を常に消費しなければならないので、必ず生産といふ事の必要が生ずるのであります。生産は殆んど人力を用ひて作り出すのであり、それを絶えず消費しなければなりませんから不自由なしに消費するにはどうしても無駄のない消費法を考へなければなりません。それが都合よく行かないと社會的爭鬪を起す基になりますから、榮養學又は食糧の消費法は道德の基となる譯で甚だ大事な事と言はねばなりません。つまり食物を合理的に

分析試驗によると、牛肉に比べて蛋白質の含有量やカロリーは、生鰊はほゞ同じでありますが身欠鰊や數の子は三倍以上を示して、その上ヴイタミンも各種を備へてをるといふ、全く理想的な榮養食品である事が立證されました。榮養食品といへば牛肉や牛乳、鷄卵などの代名詞のやうに考へられてゐた迷妄の時代はすぎて、野菜や魚肉食のこゑが近ごろめつきり高くなりましたが、魚類は乾物にして水分をとると生魚よりも蛋白質や脂肪が多くなり、燻物になると一層榮養價が高くなるのですから、將來は榮養と經濟上から、また處置利用法の發達といふ國家經濟の上からもこの鹽乾魚や罐詰がさかんに食べられるやうになるでせうし、また必ずならなければならないと信じてゐます。

　私はこの見地からつひ八月のはじめに北海道へ食糧品の視察に行きまして農産物、水産物から乳製品などの狀態ゞ二十日ほど見學して來ましたが、第一に、鰊が肥料の關係から農業の方にも大きな位置を占めてをり、もつと緊要な食用奬勵の立場から全道を通じて非常な熱心さを以て研究されてをる事實を見ました。

　殊に北海道水産試驗場では、何年となく研究がつゞけられ立派な料理法の研究もたくさん出來ておりますが、それは全く鰊とは思はれないほどおいしい上品なものであります。北海道では漁業地、都會地は申すに及ばず奥地にはゐつた農家でも春鰊の出さかりには、丁度秋頃どこの家でも大根や菜の漬物を漬けこむやうに年中行事のひとつとして、たくさんの生鰊を買つて一年間食べられるだけ漬けこんで保存してをきます。私は三四個所の農家をたづねて漬け方を調べて見ましたが鹽漬、糀漬、粕漬、麹漬から野菜と一所に漬けたものや、身欠きから數の子まで種々雜多な漬け方があつて、それはおいしいものでした直ぐ食べるものとしては鎌倉漬、當座漬、味噌漬などゝいろ／＼あつ

消費するには健康の事も道徳の事も考へなければならないのであります。

◇

このやうに吾々は食物を如何に合理的に消費して行べきかと言ふのが榮養學の目的ではありますが、現在吾々は榮養素を攝取するには植物を通じて無機物を有機物として攝取するのでありますが、後にはその方法で榮養素が得られなくなる時代が來るのであります。そこで無機物から直接榮養素を攝取する方法を考へなければなりません。今では植物の中に含水炭素、蛋白質及脂肪は人工的に作り得る事が證明されて居るのであります。只まだ實行するまでに完成されてゐないのであります。斯やうにして着々と食物の合理的な消費法の研究に努力しつゝあるのでありますが、なほそれと同時に生活現象――即ち生命を續ける爲めの研究もするのであります。例へば子孫を澤山作るにせ如何にするがよいか、例へばヴイタミンEで以て子を澤山産ませるとか、生長にはヴイタミンFが必要であるとか云ふのがそれであります。此のヴイタミンEやFば最も新しい學說なのでありますが、すでに鼠によつてそれは證明されて居ります。これによつて食物の選擇と

てお神さん達は私に「鰊漬けの味がわかればもう北海道を去る氣は出ませんよ」と、笑つて話したものです。かういふわけで北海道の農家は鰊をふんだんに食べてかなり榮養を攝ることが出來てをるのは産地に近いゆゑとはいへ、內地の農家に比べて何といふ幸福なことではありませんか。

鰊の食用加工品としては鹽漬やいろ〳〵な漬けたもの、燻製、身欠き、數の子、蒲燒罐詰、粉末にした調味料などありますが、一般の人がもつと鰊を好んで食べるやうになれば加工上の發達は目ざましいものになりませうし、第一市場に出るねだんがずつと安くなるのは當然です。增毛の水產組合長の話では將來直接取引のさかんになる事につとめて、購買組合などゝ聯絡をとりつゝ次第に成績をあげてゐるとのことですが、生鰊は冷藏輸送の關係からすべて貨車取扱ですから何軒かの家の註文をとり纏めて申送ればよいので、消費組合で取扱はれる事が一番理想的で望ましい事と思ひます。

生鰊は春三月の中頃から四月の末頃までのみぢかい期間だけですから敏速に處置してしまはなければならないのですが、內地は北海道とちがつて氣候が暖かいから果して生鰊の漬けこみは成功するかどうかその點はよくわかりません、殊に東京などの一般の家庭では大樽にものを漬けこんで保存してをくなどゝいふ小事をあまりしませんし、樽も等漬置き場所もないのですから、やつぱり加工したものが食用として實際化されなければならないでせう。

鹽漬鰊は水に漬けて鹽出しさへすれば生鰊と同じ料理法にして食べられますから一番將來廣く用ひられるでせう、燻製はうすく剝いて味淋酢につけたり三杯酢にして食べ、身缺きは甘露煮にするか昆布卷に

云ふ事も亦必要である事が分るのであります。或は病氣に對しても從來は病氣になつたものを治療する方法のみが考へられて居たのでありますか、今後のそれは豫防といふ事に重きを置くために、先づ吾々の常食なる米も白米では効果に乏しいので、私は無洗七分搗米を奬勵しやうと思ふのであります

以上の如く榮養學は今や將に世界に誇る發達を遂げつゝあるのでありますがまだ日本の一般女性の理解を得ず、又理解は得ても實際生活に利用されてゐないのは誠に遺憾と云はねばなりません。進んで日常生活に榮養學を應用して戴き度いのであります。

◇

終りに右の七分搗米が何故良いかを大略述べて置きませう元來消化吸收としては一番よいのは白米が第一で、次に七分搗米、半搗米、玄米の順、榮養の點では玄米が第一で、半搗七分搗、白米と云ふ順です、そこで榮養價が多くても消化吸收が惡くては結局無駄ですから、白米に近い吸收實量を持ち且つ榮養價の多い七分搗を理想的と認めるのであります。半搗米は七分搗米より榮養は多いが、右の兩點を參酌し、効の上に於いて七分搗よりも些か劣るのであります。まだ此「無洗七分搗米」も一般的には利用されて居りませんが、これは實際用ひられる時が來たなら、榮養上大なる好影響を見る事を信ずるものであります。

してもおいしいものですし、大豆と煮たり味噌煮にもいたします。乾數の子はお正月食べるものと極つたやうに思はれてゐますが、七月から九月頃にかけて一番廉い時ですから買ひこんでおいて普通にして食べたり麹漬にするとそれはおいしいもので、殊に鹽漬かずの子は四五時間水に漬けますとよく鹽出しが出來てまるで生のやうになりますから、辛子和へや酢味噌和へ、木の芽和へなどにしましたらまた洋食のサラダの中に加へても面白いものが出來ます。

一番重寶で　番廣く用ひられるのは鹽漬鰊で野菜とゴタゴタ煮込んご三平汁といふのにしましたり、酢漬にして胡瓜を芯にして巻いたロールモップスといふのや、鹽出して二三時間甘酢に漬けておいたのにトマトソースをかけたのや、その他ヘリングサラダ、マスタードヘリングなどいろいろ料理法があります。然し生鰊や鹽漬けの場合は産地から内地へ來るまでの輸送中に果して品物の質が大して落ちないかどうかといふ事です、そして値段の點であります。

生鰊は北海道では出盛りに十錢に十五本もする、それが東京の店へ現れると活きのよくないので一尾四錢位になつてしまふ、身缺きが北海道で十錢に十五本するのが東京では九本から十本位ですもの、中間商人がどれだけ利益をとつてゐるといふ事がおわかりでせう。どうしても將來は消費組合の手によつて新らしいものが廉く買へるやうになるべきであると思ひます。増毛や余市、岩内の水産組合では生鰊のほかは小口でも取扱ひ組合ならば廉くする便宜を與へるといつてゐます私は北海道水産試驗場から送つて貰つてゐますが組合の方へも交渉次第送るでせう。そうすれば市價の半額で仕入れる事が出來、また大量ならばもつと廉くなるやうに便宜を圖るといふ事を聞いて來たのでありました。

個人愛に溺れようとしつゝ

君島こり

×××の日、親しくお話を伺ふことができてほんとに嬉しうございました。

あのときは、胸の底までわかつた樣でしたのに、あのときのお言葉を忘れまいために、私はかうして何遍も、何遍も紙に書きつけて讀み返してゐたのですが、再びもとのやり場のない悲しみと焦燥に涙ぐんでしまひます。

『あなたの子供よりも、もつと〳〵不幸な子供が世の中には隨分に多い。乳を搾つて捨てるほど澤山持ちながら、勞働に出かける母親を待ちわびて、子供は榮養不良で泣いてゐる

或る家事科の先生が、子供二人に、畳のべんとうと、夜のべんとうを持たせて託兒所へ預け、自分は教壇に立つて育兒法を教へてゐる未婚の若い生徒たちは、無心にノートを取つてゐるけれど、先生の心は託兒所で冷たいべんとうをたべてゐる子供の事を思ふて、熱涙にわき立つてゐる！

みんな、自分の不幸に溺れてしまふからいけないのです。そんな不幸に、なぜ女が堪えてゐるのでせう。代議士一人が、五萬圓十萬圓で反對黨に買はれてゆく金子があるのに資本家が政治家を抱きこむために、幾十萬幾百萬を惜しまず金子を撒くのに！日本國の豫算をみても――第一、軍備に過半額をかけてゐる。上では罪惡を生み、不幸を重ねるばかりの使ひ道に、隨分と澤山の金子が散らされてゐるのに、下では、五圓十圓のために母と子がどんなに不幸へ不幸へと、すべり込んでゐることか！

女が、社會全體の上に大きく見開いた眼を据へて、一人の不幸を社會全體の上から眺めるやうになれば、こんな不公平な不幸に默つて耐えてゆく必要がなくなる筈です。女があまりに、社會的に無神經すぎるのです。不幸な女が隨分と多いのに、その不幸な女たちだけが一緒に起つても、その怒りで、充分今の不均等な世の中を、明るくすることができる！』

こゝまで聞いたとき、私は、さうだ、ほんとにさうだ、こんな不幸があるものか。私も自分のこの不條理な、不幸の上に敢然と起つて、奥先生がたの運動にお手傳ひしやうと決心したのでした。然るに、然るに、うちへ歸ると、又子供たちの前で私は、打ちひしがれてしまひましたの。

將來の社會は、或ひは奥先生や私たちの共力奮闘の結果、よい社會になるかもしれないきつと、きつとさうなるであろうことを私は疑ひません。然し、現在の不幸は、どうなるでせう。現在の不幸をこれ以上に深めても、子供たちをもつと私の手もとから、つき離しておいてでも、私は將來の社會をよいものであらしめるために、働かなければならないのだとすると……

私は、私のうちの貧乏を訴へて、然し、女中を雇うて私が働きに出ることにすれば、經濟的には、餘裕が出來るやもしれないとしても、幼い子供たちが無學な女中に歪められるだろうと思ふと、それも出來ない私の氣持をお話してゐる内に、女々しくもあんなに涙なんか流してしまつて、何ごとも社會全體の上に眺めて、社會全體としての根底的な解決を

計ろうとしてゐらつしやる、先生のお氣持をはつきり摑ませて頂きました私は、さぞあの時の自分一人のびんぼう脫出に懸命になつてゐる私の、獨善的な涙をケイベツなさつただろうと、ほんとにあとで恥しうございました。

　私には、まだほんとうに社會的な自覺が芽ばへてゐないらしい、私は苦しい。私の心にかゝるのは、やつぱりもう少しうちの暮しに餘裕をつけるにはどうしたらいゝだろうか？この問題で一杯でありますもの。頭では、もつと社會的に――と思つてゐても、情熱がそれに伴はない。挫けた私の女々しい心を叱つて下さい。獨りよがりの私の個人愛を叩きつけて下さい。私にみなさんの様な力を下さいませ。

百姓嫁の手記

川口やす

　ひどい空つ風で、息をするのも苦しい位の日だつたが、家の中にゐるのが辛いので、やつと歩き出した男の子を籠に入れて、荷車の上に載せ、生れて四十日許り經つた女の子を背負つてわたしは河原へ荷車を引き出した。

　河原の松並木の松葉を掻き寄せたり、枯枝を拾つたりすることが、産後の體には流石に太儀だつたが、ふくれ返つてゐるおふくろさんの顔が見へないだけでも氣持がいゝ。廣い河原に點々と働いてゐる砂利掘りの中に、夫の姿があるなら、まだ幾分張り切つた心を持ち續けることも出來るのだが、雨が少く、川の水が淺くなつたといふことで、夫の仕事は見付からず、野良仕事にも手が付かずに新開地へ通つたり、ちよぼ一(ばくち)に病みつき出したり、その金はみんな借金だ。わたしが嫁に來る時に呉れた帶代百圓も　虚榮張つた振舞酒の金も、みんな親類に泣きついて借りたものだ。その上に、わたしは、夫と同じ病氣で四ケ月許り醫者通ひした金も、何もかもみんな借金だ。誰がそれを返すのかと、腹を立てゝ見たところで、わたしも考へなければならないのだけど、おふくろさんは、わたしを貧乏神だと云つて、二人の病氣も、わたしが持つて來たものだと云ひ張つた。わたしは之だけは自分を信じ度いのだけども。辯解しても無駄なことだ。

　うちの嫁どんは、子供拵へるより外に能無しだと罵るけど、夫に向つては云ふべきことは何も無いらしい。

　この子(背負つてゐる女の子)も、四十日經つのだけど、まだお宮詣りが濟んでゐない實家の母が、ひと工面して祝つて來たつむぎ友禪では、世間の手前みつともなくて着せられないと云ふのだが、その實は、方々へお返禮に使ふ糯米が工面つかず、そこへ持つて來て、初節句が近々に迫つて來てゐるのに、何に用意もないので、わたしは、又わたしの衣類を賣つて、しるしだけでも濟まして了はうと云ひ出したら、突然怒鳴りつけられてしまつた。

「着物、着物つてどんなものだか知らねえけど、俺が家へ來りや、もうてめえの許りじやねえど」つていふのだつた。それも、近々嫁に行く小姑の爲に、それらを用立てやうとし

てゐるおふくろさんの心持にや違ひないが、
　わたしには、外に何もない。ほんとに體一つ限りで まだ一度だつて、夫が稼いだといふ金は受けとつてゐないし、こんなまだ何も解らない赤坊の爲に 節句雛だ、絹の着物だつてものが果して必要なのだろうか。
　本家のおくみさんのやうに、小切れ細工の雛様がわたしに作れるならいゝけど、そんな暇も何もない。何もない。何もない、今のわたしなのだと思ふと、何の爲に嫁になど來たのだろうと思ふ。
　風があんまり烈しいので、男の子がべそべそ泣いて仕方がないので、薪拾ひは止めにして歸ることにした。八幡様の脇の路で、本家のおくみさんが 東京へ買物に行つた歸りだといふのに行き逢つた。おくみさんは丙午の娘でお嫁の口を探してゐるのだが、女子青年の幹事だけあつて、わたしには一番優しい口を利いて呉れる。包みの中から、キャラメルの小さい箱を出して、男の子の手に持たせて呉れた。わたしがもじ〳〵してゐたら、「いゝわあたしが上げたのだからつて、後で云つて上げるから」と云つた。本家は相當の地所持ちだから、おくみさんは同情的にわたしを勞はつて呉れるけれど、嫁さんに對しては餘り良い小姑ではないらしい。何處もそうかも知れないが、わたしの小姑は……あゝ思つても厭だ。恐ろしい。二人の小姑は今、百姓の年期奉公に行つてゐるのだが、今年から給金は一文も家へ助けるのは厭だと云ふのだ。
　夫はそれで、ちつとは借金の埋め合せでもしやうと思つたところなので、藪入りに來た妹を打つ蹴る、一と騷ぎをやつたのは二週間許り前なのだが、おふくろさんは娘が可愛想だと云つて、一人でぶん〳〵して塞込んでゐるのだつた。おくみさんは、あの事を云ひ出して笑つた。
「叔母さんが、あんな風じや、おやすさんが一生堪らないわね」
　堪るも堪らないもないんだけど、夫は夫、おふくろさんはおふくろさんで、もう一錢でも内密に自分のふところへ、ひそませやうとしてゐるから、お人好しで存在の影の薄い親爺さんまで、ホレーン草や葱をちよび〳〵夕巢(市場)に持ち出して取つた錢は燒酒に代つて了ふのだから、ちつとも氣持の揃はないのを、わたしは無能な嫁なるが故に、ぐうもすうも云ひ出せないのは、何と意氣地のないことか。

家庭に落ついてゐられぬこの氣持

本多伊都子

　皆様がたの御奮とうの有様を、目のあたりに想像して、いつも胸をおどらせてゐます。それに、書かれてゐる事がどれもこれも私の平常考へてゐる事と同じであるので、一層深く痛感されて、ぢーつとしてはゐられぬ胸のトキメキを感ずるのであります。さうして理解し合つた人たちが、働き合つてゐらつしやるのはほんとに羨ましく思ひます。私はいつも「貧しき者は貧しきなりに働け」といふ考へから、外見も何もありませんでした。たとへ收人は少く共、あの頃の私の體驗は、金子に代えられぬものでした。疲れ切つた身體と心を抱いて、それでも未だ、生きやう、生きやう、ともがいて來ました。
　然し私はとても無學なのです。、皆様方のお書きになつたものを讀んだり、實社會をみ

たりする事を以て、唯一の樂しみにし力にして、雪に閉ざされた北國生活の慘めさの中で不遇な夫を勵まし、自分をはげましてくらしてゐるわけです。せめて十年も經つたら、女も自由に働きうる世の中になるのではありませんでせうか。それまでは精々身體を丈夫にしておきたいものであります。此のまゝではほんとうに死に切れません。

お米はなくとも、お金はなくとも「婦人運動」をよめるだけの暇があれば仕合せですもの、元氣はこの通りはち切れさうにありますたとえ泣き笑ひでも、かうして元氣に笑つてくらしてゐます。いつかぜひお目にかゝりませう。

愛兒を先立たせて

廣澤洋子

……自分が病弱な上に、病弱な夫を抱えて生活のどん底を充分味ひ、貧しい他人の生活をも色々見て來た私、私の子とは思はれぬと云はれたほど、人形のやうにかわいがつた嬰兒を先立てた私、思へばこの四ケ年こそは奮鬪の涙の四ケ年であつた。そしてそのむくゐとしては冷たき一片の言葉であつた。

あのとき私は、決然として座をけつて出たかつた。然し、明日にもパンに困るのであろう。然し、私ばかりがかうした立場で苦しむのであろうか。いや〳〵、無産階級の全てがうけなければならぬ苦しみである。そればかりか、女は、傳統を脱しえぬ家族制度の中に於て、その上にも吻りけづられなければならぬ。呪はしい日本の家族制度！

亡き愛兒は囁く。母よ、勇敢であれ、私と同じ運命にある可憐な幾萬の愛兒を救へと。おゝ、火のつく樣な、絹を裂くやうな赤兒の聲がする。

私は弱かつた。それ故に可愛いゝ嬰兒をひぼしにした。育兒の知識は十二分にもち乍ら無智な女中に任せたきり、病氣の看護も十分にはしてやれなかつた。職業婦人の私。いとしい愛兒を失つて、身を切つて得た經驗で私は思ひました。これは私一人の問題ではない重大な社會問題だと、時代は婦人を家庭にだけ入れておいてくれなくなつたのに、婦人が職業をもつて當然に起つて來る育兒の問題について、相當の保護が職業婦人にも勞働婦人にも與へられべきである。日本は嬰兒の死亡率が最も大きいと云ふではないか。

私がもし、この樣な苦難をなめなかつたら恐らく貴女方の團體や、お仕事を無視したろう。けいべつし、一べつも與へずにブルヂョア振つて暮したろう。私は愛兒の死を無意義に終らせぬため、地上の幾萬の惠まれぬ幼兒愛育のため、個人の經濟的自覺を叫び協力一致を叫ぶ。

私の一生の仕事として、それのみがある。

よし私の力がどんなにか弱くとも愛兒の死によつて目醒めた私のちう心の叫びがこのまゝ消えて行くものとは斷じて信じません。

昭和四年度豫算の話

（わが國庫の收支狀態）

川越丈雄

一　本年度豫算の總額

昭和四年度豫算に對する可否の批判は、これを餘人に讓り私は只之を簡單に說明せんとするのであります。

昭和四年度總豫算額は歳入歳出共に十七億五千二百八十一萬六千二百七十五圓でありまして、これを昭和三年度の實行豫算に比較しますれば、四千三百餘萬圓を增加してゐるのであります。

歳入の經常部は十四億九千九百餘萬圓、同臨時部は二億五千三百餘萬圓であります。臨時歳入の內、

普通歳入は八千百餘萬圓で

公債金が九千百餘萬圓

前年度剩餘金の繰入が八千百餘萬圓

これに對する歳出の經常部は十二億三千九百餘萬圓、同臨時部は五億三千百餘萬圓であります。

二　各稅の問題

經常歳入のうち、租稅收入は、總額八億九千二百餘萬圓で總歳入の半額を占めて居ります。租稅は

酒稅の二億三千四百餘萬圓が最高で

所得稅の二億二百餘萬圓がこれに次ぎ

關稅の一億四千四百餘萬圓がまたこれに次で居ります

砂糖消費稅は八千二百餘萬圓

地租は六千三百餘萬圓

營業收益稅は五千三百餘萬圓であります。

地租と營業收益稅は、昭和六年度から地方團體に委讓し、

國稅としてはこれを廢止する計畫となつて居りますが、昭和四年度及同五年度に於ては、過渡期の施設として、田畑の地租の稅率を五厘（北海道に在りては四厘）だけ引下げ、營業收益稅の免稅點を千圓に引上げたのであります。これが爲めに地租及營業收益稅の減少する額は、昭和四年度豫算に於ては千百八十餘萬圓であります。

次に官業及官有財產收入は四億八千八百餘萬圓で、總歲入の約二割八分を占めて居ります。このうち郵便電信及電話收入が二億四千九百餘萬圓、專賣局益金が一億九千百餘萬圓、森林收入が四千六百餘萬圓であります。

印紙收入は八千六百餘萬圓で、その內登錄稅の收入が五千六百餘萬圓であります。

三　特に注意すべき點

臨時歲入の內注意すべきは、公債金と剩餘金繰入と賠償金特別會計繰入であります。

公債金は所謂震災善後公債で、昭和四年度に於ける帝都復興費七千三百六十一萬餘圓、震災復舊諸費四千六百六十餘萬圓、合せて一億二千餘萬圓うち九千百二十萬餘圓を公債によるのであります。尙公債計畫は右の一般會計の外に、特別會計の公債が帝國鐵道八千萬圓、朝鮮總督府二千萬圓、臺灣總督府五百萬圓、關東廳百萬圓、樺太廳百萬圓でありますから一般會計特別會計を通じて昭和四年度に於て、歲出豫算の財源として發行する新規公債の發行額は、一億九千八百二十餘萬圓であります。

獨逸の賠償金は賠償金特別會計で整理して居りますが、昭和三年末に於て同會計の現金の現在高は千八百餘萬圓に達し尙ドーズ案の實行によりて年々約七百萬圓の收入がある見込ですから、昭和四年度に於てはそのうち千二百九十餘萬圓を一般會計に繰入れて、移植民の保護奬勵に關する經費國際聯盟に關する經費、及び航空施設に關する經費の財源に充つるのであります。

昭和二十度の決算上生じたる歲計剩餘金は二億九千七百餘萬圓ですが、その中から翌年度に繰越したる歲出の財源に充べき四千八百餘萬圓を差引いた二億五千六百餘萬圓が純剩餘金であります。その中で二億三百餘萬圓は昭和元年度以前に生じたる剩餘金の使ひ殘りで、五千二百餘萬圓が昭和二年度に於て新に生じた剩餘金であります。處がその內で一億一千

八百餘萬圓は昭和三千度の實行豫算の財源として繰入れ、三千四百餘萬圓は同年度に於て支那事件費其他の責任支出の財源としましたから、殘るところは一億三百餘萬圓で、その內八千餘萬圓を昭和四年度豫算の財源に繰入れ、殘額二千二百餘萬圓を以て昭和三年度及四年度の追加豫算等の財源とするのであります。

四　各省別歲出豫算

昭和四年度歲出豫算は前に述べたやうに、經常部十二億三千九十餘萬圓、臨時部五億二千百餘萬圓で、これを各省別に分くれば次の通りであります。

經常部

皇室費	四百五十萬圓
外務省	千六百五十餘萬圓
內務省	四千七百四十餘萬圓
大藏省	三億三千七百三十餘萬圓
陸軍省	一億八千八十餘萬圓
海軍省	一億四千九百七十餘萬圓
司法省	三千五百二十餘萬圓
文部省	一億二千三百六十餘萬圓
農林省	三千百三十餘萬圓
商工省	五百六十餘萬圓
遞信省	二億九千七百四十餘萬圓
拓殖省	九十餘萬圓

臨時部

外務省	四百六十餘萬圓
內務省	一億六千八百八十餘萬圓
大藏省	四千九百二十餘萬圓
陸軍省	五千百十餘萬圓
海軍省	一億一千八百二十餘萬圓
司法省	百八十餘萬圓
文部省	千九百六十餘萬圓
農林省	三千百五十萬餘圓
商工省	七百二十餘萬圓
遞信省	六千五百七十餘萬圓
拓殖省	三百五十餘萬圓

次に歲出豫算を經費の種類に依りて區別すれば

皇室費	四百五十萬圓

國債費	二億八千三百四十餘萬圓
恩給及年金	一億四千三百十餘萬圓
行政費	七億七百二十餘萬圓
補助費	八千八百七十餘萬圓
軍事費	四億九千八百七十餘萬圓
陸軍	二億三千百餘萬圓
海軍	二億六千七百七十餘萬圓
國庫豫備金	千四百萬圓

五　わが國庫收支の狀態

わが國の國庫の收支の狀態を見ると、租稅の納期の關係で年度の初めには收入少く、爲めに國庫の現金が不足し、年度の終りにたつて初めて收入支出の權衡を得ることになるのであるが、從來は國庫に多額の剩餘金が存在してゐた爲めに、年度の初めに於ても現金の不足を見るやうなことはなかつたのであります。然るに近年國庫剩餘金が激減し昭和元年度決算上の純剩餘金は、四億二千九百萬圓であつたものが、昭和二年度の決算では二億五千六百萬圓に減じ、昭和三年度には尚減少する傾向が見へます。從つて昭和四年度の初期には國庫の現金に不足が生ずる虞があるので、從來五千萬圓であつた大藏省證劵の發行限度が一億圓に增加されて居るのであります。尚從來は五千萬圓の發行限度であつても前記の理由で實際は大正五年以來その發行は無かつたのですが、本年は久し振りで實際に發行されることになるでせう。

以上は一般會計の豫算の說明でありますが、尚此の外に特別會計が三十四程あります。これを通算致しますと昭和四年度歲出豫算の通計は五十一億圓となりますが各會計間に重復するものがありますから歲出の統計は三十八億圓となります

朝食無稅政策　といふ主張があります。イギリス勞働黨で、無產階級の負擔する稅金を少しでも輕くする第一步として、きわめて簡單な朝飯だけでも、稅金を含まぬ安い値段で食へる樣にすべしといふのです。日本ならば味噌汁に漬物といふ處ですが、あちらではパン、牛乳紅茶位で、これらにも直接間接に消費稅やら、關稅やらがついて値段がせり上つてゐますから、稅金の關係で高くなつてゐる分だけ引き下げやうとするのです。砂糖を初めとして、鹽でも、酒でも、煙草でもみんな稅金のおかげで高くなつてゐます。これらは金持だから何十人分食べる、貧乏人だからちよつぴりでいゝ、といふわけにゆかぬ必要品ですから、稅金はかういふものに掛けずに金持から取立るのが正當であります。この點消費者としての主婦が搾取されてゐるのですから稅制改革のため憤起すべきであります。

産兒制限問答

明るい世界へ

野尻與顯

はしがき

花はたゞ若い梢にのみ咲きます。社會の進化はたゞ若い血潮によつてのみ培はれて行きます。みだりに新しがりやを非難してはなりません。すべての活動ことに社會運動は、新生命が燃へなければ鍛ひ上げらるゝものではない。この世に於て最も尊く美しいものは若人の燃ゆるが如き新生命と云はねばならぬのであります。

生物界の現象を觀察するに、蜂でも、かまきりでも、こほろぎでも殆ど彼等昆蟲の世界は女性の王國なのであります。人類に於てもその原始時代に於ては、女性は偉大なる權力の持主でありました。然しながら文化の漸く進むにつれて、女性の使命である育兒の任務は、次第々々に女性を家庭内に籠城せしめ、男子のみが一切の對外的または經濟的な任務に働く様になり、從つて次第に女性の經濟的獨立の基礎は破れ、男女は主從の關係に置かるゝ様になりました。かくて從なる女性に對し主なる男性に都合のよい習慣、制度、道德と云ふものが生れ、之が何の不合理も感ぜられず、時には幾千百年を流れ去つたのです。然しながらこの傳統的な婦人道德と云ふものは、女性の目醒めの時期の迫つた時に、何等の動揺なしに置かるゝ譯のものではありません、女性の本然の力、長く久しく廢墟に閉込められた女性の心靈、今や長久の眠より醒めかゝり、本然の力へと立ちかへる可き道を求め出した。こゝに新婦人の運動がめざましくも、男性への挑戰を開始し

たのであります、不合理なる男性の壓迫をのがれて本然の女性にたちかへり、兩性をめぐる脉管を整理し、暴壓にあらず壓迫にあらず、眞の和合、眞の理解、眞の戀愛の世界を實現せんと努力する、新生命の泉がすばらしくも力強く迸り出でたのであります。而して產兒制限運動は實に婦人の新生活に備ふべき缺くべからざるもの丶一つとはなつたのであります。

兩性間を貫くものは性問題でありまして、その解釋の正邪は、婦女をして直ちに賣淫婦にまで轉下せしむる、戀愛なくして嫁する女、經濟的乃至世間的非議を恐れて地獄谷を脫する能はざる女性、彼等は遂に賣笑婦たる以上の榮譽を保ち得ざるものでありませう。

性關係には二つの重大なる使命が宿つてゐます、一は種族の繁榮であり、一は戀愛關係卽ち人文の進步と共に發達し來りたる第二義的なる關係なのであります。私は玆にこれ等につきて說明する時間をもたぬ事をいかんとするが、產兒制限はこの兩者の上にまたがりて兩性間に與へられたる新福音であり、女性を明るい世界へ導かうとする燈火なのであります今左に產兒制限問答を述べて讀者の御參考に供しますが、公開し能はざる多くのものを持つ事の御諒察を願ひたいのであります。

若き母と或女醫との問答

問● 私は三十二歲で四人の子供の母なのでありますが、身體も弱く且つ主人の收入も少いので、この上子供を產むことは堪へ切れぬ負擔なのでありますから、ぜひ避姙の方法をお願ひしたいのでございます。

答● ご尤な要求です。世の中にはあなたと同じ苦みをもつ姉妹が甚だ多いので、私共は常にその問題について考へて居ります。まあごゆつくりお話しいたしませう。

問● 有難う、避姙法と云ふのは無害確實なものでありませうか。

答● さうですね、之には澤山の方法がありますけれ共、皆一長一短で確實と申上げうるものはありませんのです。

問● では避姙法はだめだと仰有るのですか、私はもうこの上母になる勇氣はありませんから、先生にお伺ひして駄目でしたら別居でもしやうかと決心して居りますが。

答● そんなことはありません、別居などは早計であり、家

庭の破壊であります、私は避妊は絶對に出來ぬものだと云ふのではなく、殘念ながら今日の處、絶對確實な方法はないと申上ぐるだけなのです。汽車でも自動車でも、一年に幾何かの犠牲者は免れられないし、薬だつて絶對的に奏效するなどと云ふものは甚だ少いのですからね、だから矢張失敗する若干の人がありましても、之を以つて避妊法を葬り去る譯には參りますまい。

問・　喇叭管の切斷手術をして頂いたら絶對に安全なものではありませんか、私は開腹術でも何でも甘じて受けやうと覺悟してゐますが。

答・　左樣、喇叭管切斷法は永久的な避妊法でありますからお若い方のなさる方法ではありません。將來またどんな事情で子供が欲しくならぬとも限られませんから。

問・　ではX光線をかけたらどんなものでしよう。

答・　光線は卵巣の排卵機能をこわすのだから矢張永久的な避妊法になりますね。

問・　固りましたね、男子の方に施こす輸精管の結紮はどんなものでせう……。左樣主人は今年三十八歳です。健康ですか？　それは普通であります。

答・　之も考へものですね、何か悪い病氣があるとか、老年期に入つたならこれは別問題ですが、三十代では手術せぬ方がよいと思ひます。左樣、手術は容易であり、又若返り法と命名せられてゐる位故、身體には無害なのですけれども、之も永久的に妊娠機能を失ふことになるのですからね。

問・　さうしますと、喇叭管の切斷とか、X光線とか、若返法と云ふのは永久的避妊法なのですか、私は永久的避妊法を施すには若過ぎると仰有るのですね。

答・　まあさうですね、だから一時的な卽ち將來妊娠を欲する樣な事情が生じたら、産むことの出來るやうにして置いたらよいではないでせうか、私はこれをおすゝめ致します。

問・　その方法をお話し下さい。

答・　先程も申上ぐる通り色々ありますがね、元來妊娠はどうしてするものかと云ふに、女子の卵子と男子の精子とが喇叭管（輸卵管）內で結合し、これが子宮腔內に降りて來て、粘膜上に着床することなのでありますから、女性の卵子か男性の精子かの一方を全く無くする方法は今申上げた絶對的避妊法でありまするし、よし全く無くせずとも卵と精子との結合を妨ぐるか、若くは兩者が結合しましても子宮粘膜に着床

せぬ様にすれば自然流出してしまうから、これ等の理由の上に考へられたのが、所謂一時的避姙法となる譯なのであります。大體之を區別して見ますると、

（甲）永久的避姙法

一、輸卵管結紮乃至切斷法
二、X光線による方法
三、若返り法

（乙）一時的避姙法

一、性交中絶による方法
二、排卵期測定による方法
三、隔膜による方法
四、藥品挿入による方法
五、膣內異物挿入による方法
六、金栓挿入による方法

の六種になります。

問・どんな場合に避姙法を行ふべきものでせうか。

答　子供の欲しくない人、欲しくとも自分の健康か生計のゆるさぬ人、一兒を産んで三年間を經ぬ人等で、之も詳しく申上げれば大變ですから、要するに子供の出來て困る場合には必ず避姙すべきものと思ひます。

問・月經下し藥は効果のあるものですか。

答・ありませぬ、不德義な通信販賣業者は通經劑は〇〇の効果あるものゝやうに暗示して、溺るゝ女の油をしぼつてるが實に困つたものだと思はれます。

問・避姙は道德上如何なものでせう。

答　新しい正しい道德だと思ひます。姙娠調節と云ふのは優秀なる子供を生まうとする親の慈悲心であり、之を擴大すれば、人類を共苦惱から解放しやうとする社會運動の一つなのであります。人間の幸福を增進しやうとする時に、先づ幸福の失はれ來つた原因を探究して之を除かなくてはなりません、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇茲に色々な爭鬪が起つて來る、自由なる世界を獲得しやうとする努力は不斷の勇氣と精進と智慧とを與へてくれます。女性は其天賦の力を伸展せしむる爲に全力をあげて戰はねばならぬ、之は獨り若人にのみ許された特權であります。若き梢に美しい花を咲かせるためには、古い枝を摘去る事は餘儀ないでありませう、私共を素直に、無理がなく、明るくそして強く生かす道にこそ眞の道德が宿ると思ひます。故に醒めたる女性は呪はるべき子供を、自己の眞生命を傷くべき子供を生んではならぬ筈です。たゞ歡喜と希望との中にのみ産む事が出來たら、これ丈でも女の世界はどれ程明るくなる事でせう。

名勝史蹟寫眞

秀麗なる山河風物、由緒深き社寺堂塔、我日本は古來景勝の地、古蹟の邦として世界に誇る。小社こゝに見る所あり「日本名勝史蹟全集」全十五卷の刊行を企て、汎く斯界專門諸家の援助と垂教を俟ちて、凡そ名勝史蹟の傳ふべきものを網羅し、加ふるに近代文化事象を包含したる一大寫眞圖譜を刊行せんとす。此の機に際し、廣く全國に寫眞を募り、普く同志の參劃にまつてこの有意義なる一大事業の遺憾なき遂行を期す。振つて應募を待つ。

懸賞大募集

募集要規

種類 社寺其他古建造物、記念碑、特別保護物、地方風光、山岳、河川、海洋、溫泉、公園、農場、森林、牧場、地方風俗、珍生物、地方人物、産業狀態、工場、交通機關、其他珍寫眞。

注意 1、題材に關する說明を詳述すること。2、寫眞の構圖、彩光、方位等に注意し在來のありふれたる類に墮せざること。3、藝術寫眞を歡迎するも、如實に實相を寫せるものも亦可なり。4、返却を要するものは特にその旨明記し返送料を添へられたし。5、審査の結果は日本名勝史蹟全集月報を以て發表す。

入賞 參千名

賞品

一等 金時計 五拾名

二等 金メタル 百名

三等 銀メタル 參千名

應募締切 五月五日

東京麴町 振替東京二九三六九

平凡社

日本名勝史蹟全集概要

◇四六倍大判全十五卷、用紙アート高級印刷

◇寫眞版圖譜每卷原色版共 一千餘個挿入

◇總クロース背金文字、表紙空押頗る美本

◇圖說明の外別に三十二頁の本文を添附す

▼**一册二圓全十五册廿九圓** 本年十月第一回配本豫定

編輯顧問

理博 石川千代松　文博 瀧　精一

工博 伊[illegible]　忠太　文博 岸上　鎌吉

林博 本多　靜六　理博 三上　參次

文博 萩野仲三郎　工博 關野　貞

理博 脇水鐵五郎　文博 三宅　米吉

編輯委員

谷口梨花

藤澤衛彦

柴田常惠

今和次郎

近代女性の和服美

田中比左良

その一　制縛美

丸い彈力の有る若い女性の肉體をグイと制縛する左圖のやうな着方が頃來流行して來てゐる。若い女性の肉體はこれに依つて美の發光を一段と明らかにして來た、モデル等扱ふ場合、裸體の時は却つてだらしなく筋肉が弛緩して繪にする興味が起らんのが、この着方で着物を着ると筋肉に彈力美が醸されて來て繪にしたくなる場合等がある。だから小生はこれを和服の制縛美と稱へてゐる。（次號は和服の重量美）





誌上映畫

メトロ映畫

ジョン・ギルバート主演

密輸入者の戀

主人公はジエリー・フエーと云ふ男、これにはジョンギルバートが扮する。相手役がレッド・マッキユーと云つて鼻の大きいアーネスト・トレンスの役、これを色どつて美しいジヨーン・クローフオードがジエンと云ふ人妻を演じ、官能描寫の頗る鋭い所を見せる寫眞、單純な戀愛劇でない所が嬉しい。題名に戀と云ふ字はあるが、此の戀は男女間の戀愛の意味ではない。女を好き、酒を好き、喧嘩を好いて、この三つを戀としてゐると云ふ意味。

此の映畫は始終喧嘩ばかり見せてくれるが、しかもそれが素晴らしく風變りの手で行くだけに、見物してゐると面白い事此の上ない。反對に文章にすると、こんな短いスペースには迚も描寫出來ないのが殘念である。

さて、物語は……。

ジエリーもレッドも、共に船乘りで、同じ船で地中海を乘り廻つては、酒の密輸入をやつてゐた。大體、地中海の青い潮は冒險とロマンスの搖籃だ。二人が、豪膽で無茶で、女を漁つて、喧嘩ばかりしてゐたのは當り前だ。まして船の着く港々の女たちと來たら、たまらなく船乘りを吸ひつけて了ふものばかり。

或る時、船がスペインの港に入つた。ジエリーが一と足先に上陸して、其處の女に現を拔かしてゐる隙に、密輸入がばれてレッドは官憲に捉つて了ふ。二人は別れ〳〵になつた。やがて半年の月日が經つ。一人で船仕事をしてゐたジエリーは、圖らずもバートンと云ふ法律家にめぐり合つた。彼はバートンと其の許嫁の女ジエンとを自分の船に釣り込んで、沖へ連れたした折しも、官憲に紛ふ手段でヂエリーの船を襲ふたレッド一味と邂逅したレッドとジエリーとは舊交舊怨を溫める間もあらばこそ、又もやジエンを爭つて火花を散らす事になつた。終に酒盃を重ねた數で女を得やうと云ふ事に決めたがこれが意外に丸く納まらない。二人は互ひにピストルを執つて立ち上つた。

彈丸は、互ひの身體を傷づけた。再起する事が出來ぬと知つた時始めて二人の胸には人間本然の心が蘇つて來た。それはジエンも、許嫁の夫と定めたバートンの卑屈さを知つて本當の男を發見した。



婦人界近事

行方不明になつた思想善導費

文部省で、いはゆる赤化を恐れるあまり思想善導といふ、新しい仕事を思ひついたのはつい先頃であつたが、いよ〳〵資金も手に入つたので各大學、專門學校にそれ〳〵配布した。

ところが、この金子をいかやうに使つたら生徒の思想が善導できるかに、各校が困り拔いてゐるといふとのこと。

大阪汎太平洋婦人クラブ解散

汎太平洋クラブ内に、婦人部が正式に出來たこの機會に、解散した。內部的などた〳〵もあつたらしい。

日本に初めての開放學校

都會の雜沓に住んでゐる、東京全市の兒童十萬人の內半數は虛弱兒で、內三萬は、近い將來に、肺結核にかゝると豫斷されてゐるさうです。都會に住む年代數の多い家庭ほど子供は虛弱なさうです。

これを へて、開放學校を初めて試みました。これは澤山の窓を作つて開放しだもので一側だけが黑板でおほはれてゐる由、授業は午前中、午後は午睡と日光浴、散策、洗手、洗顏、間食、うがひ。

一ヶ年ののちに、精神的にも肉體的にも好ましい結果が現れた。ボストンの如きは、一小學校に必ず、一個以上の開放教室を備へるべし、と規定せられてゐるほどであります。

女の近視眼がふえた

女學生の身長は、十ヶ年間に平均一寸伸びたといふのですが、今一つの著しいことは同じく十ヶ年の間に、近視眼が二倍半になつたことです。內地女學校生徒二十一萬の內六萬五千人以上が、この患者であります。上級生ほど多いといふ事實は、いかに今の勉强が若い人の上にムリになつてゐるかを示すものでありませう。

生命保險の加入者激增

不景氣な折柄にも拘らず、昨年中に生命保險に入つた人が、內國十二會社で八十五萬一千八百三件 、十三億三千八百四十萬八千圓去年よりは、一億數千萬圓の增加であります零細な金子を積み立てゝ、その金子が資本家の企業費として、低利に貸しつけられてゐるのだと考へて來ると、貧乏人は結局損な役廻りばかりさせられてゐるとわかりませう。

學校看護婦の大會

全國的な大會がさき頃催されて、次の如き答申を作り、文部大臣に建議することになつた。

一、速かに學校看護婦の設置について規程を設けること。
二、女子師範その他適當な場所に學校看護婦養成機關を設けること。
三、資格條件を定め試驗檢定制度を設けること。
四、文部省及び地方廳に學校看護婦課をおくこと。
五、全國の小學校に專任の學校看護婦をおくこと。
六、その職務につき適當なる規定を設けること。
七、學校看護婦事業のため相當額の補助を國庫より支出すること。
八、その待遇は敎員と同一たらしめよ。
九、各師範學校附屬小學校に必ず學校看護婦を設置してその縣下の模範たらしめ

るべし。

十、學校教員との職員の間に緊密なる連絡をはかること。

十一、學校衛生の施設を進めその執務に對して便宜を與へよ。

十二、その服裝は教職員と同一にすること

市會の監視決議

婦選獲得同盟會では、今後の東京市會を十分監視して、再び腐敗墮落させないため次の樣な實行方法を決めた。

一、新市會を、つねに會員が傍聽して監視する。

二、婦人問題、兒童問題については委員會であらかじめ案を練つてから、市會に提案させる。

婦人公民權と輿論

今期議會で、婦人參政の諸問題は火花を散らしました。新聞紙はこぞつてこれを支持し衆議院内で、大多數の議員の贊成案にも拘らず、內相の尙早論にてにべもなく押へつけられてゐることを嗤つてゐます。

女子教育研究室が、全國の女學校八〇〇校に對して婦選附與の可否を問合せたところ、次のやうに現はれました。

回答六〇三通

		%
絕對反對	一八	〇、〇四
時期尙早	三〇四	〇、五三
卽時附與	二四六	〇、四三
不明	三五	

五年前に婦人公論が問合せたときは、回答のあつたのが十分の一に足らず、その內過半數が婦選反對であつた由ですから、時代の流れは隨分いちじるしい事を知ります。

葬られた公民權

三月五日の、衆議院本會議で婦人公民權案は、流產してしまひました。

「將來適當な時期に、成るべく早くこれを實現したいと思ふ」といふ頼りない條件づきでこの案を提出した議員は、撤回したのでした。

二十五歲禁酒法案の否決

この案は、去年は貴族院で否決されたのであつたが、今年は衆議院の本會議に上程されてから、委員會にかけられ、否決の厄にあふた。

婦人辯護士法案も流產

今度こそ必ず法案になつて婦人辯護士の道が開かれるものと期待されてゐたのに、五十六議會は不提出にをはつてしまつた、

文筆派出婦人會成る

同會を誕生させたのは文藝春秋社。文筆をよくする婦人を次の樣な規定で派出するのである。

口述筆記三圓、飜譯校正三圓、原稿淸書一枚十錢、藏書整理三圓、手紙封筒執筆及び發送二圓、ホンヤク一枚三十錢から五十錢、原書代讀一册五圓から拾圓、名家訪問引受十圓。

英國の婦人代議士

五月三十日に行はれる英國總選擧に名乘りをあげた婦人の候補者がすでに七十名を突破してゐるといふ。

これはノースラナーリシヤの補缺選擧の話であるが、勞働黨候補ジエニー・リー孃が二十四歲といふ若さで壓倒的多數の得票で當選した。リー孃は坑夫の娘であるが、優秀な成績で法科大學を卒業し目下教授である。

長詩 松井須磨子〔第四回〕

高群逸枝

四十六

みんな
タン
お退きよ
ララ
きかないと
タン
酷いよ
ララ
楽屋裏を
通る
彼女」
歌は
口から
出まかせ
歩みは
足の
向くほう

四十七

「きたぞ」
といふものがある
「やつつけ給へ」
「よしきた
おい
松井君」
背の高い
苦み走つた男が
そこに
突つ立つた
「わたし?」
「さうだ」
「何の用?」
「君は
憎んでも
餘りある
淫婦だな
君は
島村先生を
誘惑した
あの謹嚴な
尊敬すべき
先生を」
「へえ

わたしが？」
「わたしがとは
何だ
盗賊め
印度から
きた
毒婦め」
彼女は
光る目で
彼等を
眺めた
その
廊下からも
ここの
部屋からも
さも
氣味がいゝ
といふやうな
顔付の
者が
多勢で
出てくる
彼女は
手を
腰に
ぐつと
反り返つて
「わつはつは」
と男のやうに
笑つた

四十八

文藝協會
第二の出演
イプセンの
人形の家
その
女主人公の
ノラ
彼女は
その
ノラたるべく
火のやうな
稽古を
つゞけた
だが
稽古の
あいまに
楽屋裏で
云はれたことを
思ひ出すと
くやし涙が
あふれ出る

四十九

「わたしは
なんにも
知らない
考へて
見た
こともない
あの
氣高い
優しい先生
だのに
わたしが
先生と
「馬鹿な！」
彼女は

泪ぐむ

五十

「わが感激は
空しくなりて
翼を得て
飛び去れり」

かく
呟やいて
あくびをする
此の人

批評家として
名のある
此の人

坪内博士の
片腕と
なつて

文藝協會に
力を
そそいでゐる
此の人

だが
ともすれば
生きる力を
缺ぐ
此の人

何となれば
あまり
聰明で
あつたから

實際
此の世――
五十年しか
生きない此の世

それを
思つて
見ただけでも

何と
虚無な
われらの
生命であることか

だが
さういふことを
云ふと

生命を
冒瀆することになるの
詩人の
弱音のといふ

つまり
生命といふものを
自覺せず

虫けらのやうに
本能的に
あくまで
おめでたく
生きて行くことが

是も
えらい
ことだと
いふ

虚無と
いふ言葉を
彼等は
恐れる

恐れる
あまりに
嘲り
笑ふ

それは
落伍者の
弱音であると

いふ

然し
虚無は
事實だ

事實を
避ける
わけには
行かない

それこそ
臆病だ

虚無を
踏臺にして
強く
生きて行く

それこそ
ほんとうの
强者だ

あらゆるものに
對する
完全な
肯定は

あらゆるものに

對する
完全な

凝視から―

だが
凝視に
疲れる
人もある

そこには
感激が
失はれ

生きる力も
弱つてくる

それは
凝視そのものが
その人を
弱めたのではなく

現實の生活――
妥協と
束縛
これらの生活が
その人を
暗い穴の中に
引きずり込んだのだ

五十一

彼――
島村抱月こそは
空の廣さを
知つてゐながら

そこへ
飛んで行くことの
できない
天使だつた

理性が
彼を
妨げた

古い
理性が

このとき
彼の目に
彼女が
映つた

おお何と
偉大な
飛躍者か

あの
縱横無盡な

ふるまひ

あの
自由無碍な
息づかひ

彼が佇む
森蔭へ
彼女がきて
歌ふのをきけば

ようつてば
よう

あまい水
呑んだの？
タリア

もう一度
お笑ひ！
アグライア

花の雨が
降りかゝる

五十二

幕が
上ると
廣間は
薄ぐらく

中央まで下げられた
大形華燭も
まだ十分には
光らない

やがて
坪内博士の
靜かな
挨拶

それが
すむと

待ちに
待つた
人形の家の
第一幕

觀客は
かたづを
呑み

舞臺は
サンと
輝く

場面は
ヘルメルの
住居

彼女
須磨子！

おお
何と

可憐な
その姿

クリスマスの
買物包を

あどけなく
ぶらさげながら

夫の前へ
現はれてくる

「よう
雲雀さん」

可愛がられて
夢みる
人形の
まなざし

五十三

幕が

進めば
何といふ
恐ろしさ

夫に對する
ひたすらな
妻の愛が
行はせた
文書僞造

夫の病氣を
癒やさうと
借り入れた
少しの金

その證書には
彼女の父が
連帶者に
なつてゐる

だが
その父は
日付の
三日前に
死んでゐる

急場の苦しまぎれに
彼女は
文書僞造の罪を
犯してしまつてゐる

そして
今
それが知れた

それが
知れた時

おお
何と
夫の
冷やかな仕打

彼は
彼女を
突きはなし

さも
憎さげに
云ふ

樂しみは
いつしよに
味はつていゝが

苦しみは
御免だ

それは
お前
一人のものだと

さらに
いふ
「男は
いくら愛する女の
ためにだつて
自分の名譽を
犧牲には
しないだらう」

「でも女は
何百萬といふ女は
それをして
きました」

かく
答へたノラは
もはや
今までの
ノラではなかつた

あはれな
然し
健氣な
ノラ

彼女は
じつと
考へた

五十四

一個の女性は
現在の社會では
彼女自身で
あり得ない

彼女には
一つの
權利もない

愛
そんなことは
もう
夢だ

夫を
愛する
などゝいふことは
むしろ
一つの
陷し穴だ

育兒の能力
それすら
妻には
ない

現在の
社會における
妻には
それはない

深い
夜中に
燈火を
挾んで

さよならと
別れを
告げるノラ
烈しい
脚光が
彼女を
煽る」

觀客の中に
ささめきが
起り

ノラを
憎む
聲が
湧く

須磨子は
それらの聲へ
輝やかな
冷笑を
浴せかける

それは
まさしく
解放された
新女性の

高らかな
姿だつた

五十五

ノラ以來
感激と
憎惡の波が
彼女を
取り卷き

嫉妬も
また
それに
續いた

彼女の
素顏の
醜いこと

處女廉賣（一幕）

大浦輝英

登場人物

長女　文子
長男　雄一
次男　利男
彼等の母
里見

時代と所

現代、北海道のB炭鑛地。

舞臺構成

六疊の室に、二十才位の文子が、横向きに坐つて、火鉢に掛けた木綿の元祿模樣の蒲團に凭れてゐる。

上手奥に小さな机があり、形ばかりの新しい位牌と、線香立には、線香が搖いでゐる。蜜柑が三四個、皿に盛つて上げてある。その前に、煤けたバスケツトが置いてあつて、この家に珍しい派手なメリンスの羽織が、蓋の中から覗いてゐる。

下手寄りは土間で、傘や鍬が立掛けてある。

出入は、下手隅に木戸があつて、外へ出られるやうになつてゐる。見えないが、上手袖の中は臺所で、母が仕事をしてゐるこゝろ。

外は風が強く、激しく戸を叩いてゐる。

文子　私、あんな人いやだわ。

母　だつておまへ、他の知らぬ人と違つて、氣心が知れていゝぢやないか？

文子　お母さんは何時もさういふけど、あの人のことだつてよくは分らないくせに……本當につまらないわ。あれ程、歸りたい、かへりたいと思つてゐたのに、歸る早々、嫁入りの話なんか聞かされるんですもの、厭になるわ。

母　おまへ、何時もそんなことを言ふ……

文子　だつて、氣に入らないんですもの……

（間）

文子　お母さん！　なあにしてるの？　手傳ひませうか？

母　いゝよ。すぐ濟むんだから……おまへ、頭の加減は良うなつたかい？

文子　もう、いゝの。昨日、汽車や連絡船で揺れて、少しばかり氣分が惡るかつたんだけど……

（短い間）

母　炬燵はまだ、温いかい？

文子　えゝ。

（母が揉手をしながら、上手から這入つてくる。）

母　あゝ、寒い……三月といふに、何て寒いんだらう。

（と、火燵へ文子と向合つて坐る。）

文子　利男は遅いね？

母　ほんとに、どうしたんだらう。

文子　もう、休みになる位ぢやないの？

母　あゝ。一週間もすれば休みだと言つとつたよ。

文子　（頭を掻いて）あゝ、痒い。

母　どうかしたのかい？

文子　迚も痒いの。どうしたのかしら……

母　見てやらう。（と、躄寄つて、文子の髮を分けて見る）

文子　どうかなつて……？

母　……おや、少さな毛が澤山生えとるよ。

文子　本當？　そんなに澤山生えてるの？

母　あゝ。生毛のやうな……こんなに生えとつて何でもないのかい？

文子　えゝ。痒いだけ……

（炭鑛夫風の姿をした雄一が、寒さうに、頭へながら歸つてくる）

雄一　寒いねえ……只今！

母　あゝ。お歸り……

文子　何時も今頃歸るの？

雄一　うん……（母へ）何してるの？

母　……（文子の側を離れて、夕飯の仕度にかゝる）

雄一　（着物を着替へながら、文子が頭を掻いてゐるのを見て）細い毛が一杯生えてるな。こんな毛が生えると、頭が痛いといふが、何でもないの？

文子　もう、痛まなくなつたの。痒いだけ……お母さん！私、青森の會社は止めやうと思ふわ。脚氣の方も直つてゐないんだから……

母　そりやあ會社の方は、おまへの勝手にするがいゝよ。內はおまへが働かないからつて、今、どうといふ譯ぢやな

し……

文子　私、學校の先生するわ。

母　まあ、この子は、會社を止めるからつて何も……それに先生ッて容易くなれるのかい？

文子　えゝ。女學校を出てれば、代用敎員になれる資格があるのよ。

母　……ま、それより、年頃になつたら、分別したらよかないかい？

文子　また、嫁入りの話なの……？

母　雄一！……今日、事務所に、里見さんが居られやしなかつたかい？

雄一　今朝、居たつけ……

母　ねえ、文子！　おまへさへこの話を承知すりや、今夜でも、里見さんに相談して、向ふへ掛合つと貰うんだが、體が惡けりや何も、今すぐ祝言しなくとも、話が出たとき決めて置かんと、良い緣談も取逃してしまうことになるからね。

文子　私、あの人の所へ行くより、一生獨身で暮した方がいゝわ。

母　そんな無理を言ふでないよ。おまへ、あの人のどこが氣に入らないんだい？　假令、年は少し位多くつとも、人間が出來てゐなくちやあいけないよ……話に聞くと、あの人の月給は三百圓だつて……

文子　お母さん！　後妻ぢやないの？

母　おまへ、後妻だつて恥しがることはないよ。以前の嫁が男に曰くがあつて歸つたといふぢやなし、氣の毒に、若死にしたんぢやないか。

文子　だつて……

母　どうしたのさ？　まあ、よく考へてごらん。お母さんはおまへの爲めを思ふからなんだよ。

文子　もう、そんな話いや！（と、蒲團へ顔を伏せて、やけに頭を掻く）

母　雄一　！腹が減つたらう？　先にお上り。

雄一　いゝんだ。俺、今日、宍戸先生に御馳走されることになつてるから……

母　ぢや、また出掛けるのかい？　山の事ぢやないんだらう

雄一　（稍慌てゝ、怒るやうに）そ、そんな話ぢやない。何でもないんだ。

母　うん、ならいゝけど、山の事には掛合はない方がいゝよ。
雄一　（立って）うん。
文子　山の事ツて、何か起つたの？
母　さうなんだよ。御給金を値上げしとくれと、お正月からこつち、騒いでるんだよ。
文子　へえ!?
雄一　ぢや、行つて來ます。
母　あゝ。餘り遲くならないで歸つておいでよ。
雄一　……（そゝくさと出て行く）
（間）
文子　お母さん！　雄一は幾ら取つてるの？
母　御給金かい？
文子　えゝ。
母　一日、二圓五十錢……だとかつてたよ。
文子　ほう、隨分多いのね、私より……
母　そりやお男だもの、女と違ふよ。
文子　……先生の內へ何時も行くの？
母　あゝ。この頃は毎日のやうに行くんだよ。何でも、山の値上げに、先生も這入ツとるんなさうだ。
文子　先生してるんでせう？
母　あゝ。だからをかしいんだよ。利男の組の受持なんだから……まさか、山には關係ないやうに思ふんだが、里見さんの話では、今度の値上げの黑幕になつとるつて言ふんだよ。
文子　先生は新しいから、誤解されてるんぢやないかしら？
母　さうだといゝんだが……雄一が毎晩行くところを見ると値上げの相談らしいところもあるんだよ。別して、用があるわけぢやなし……一昨日など、來月は休むやうになるかも知れないなんて、恰でストライキでも起すやうな話振りなんだよ。
文子　そんなこと言つてゝ……？
母　それで、あれに休まれたら困るから、成るべく値上げの方へ這入らないやうにさせとるんだよ。そりやあ、幾らでも御給金の多いのはいゝけれど、首にでもなつたら、それこそ困るから……それに、高山さんの手前もあるし……
（利男が片跛の足を引摺つて、這入つてくる。三四年生の小學生）
利男　只今！
文子　お歸んなさい。

母　どうしたんだい、遲かつたが……學校に何かあつたのかい？

利男　さうぢやないんだ。學校の歸りに、事務所の高山さんが遊んで行けと言ふから、今まで遊んでゐたの。そりやあお菓子をうんと貰つたよ……あつ、これ、姉さんへ渡してつて……（懷から手紙を出して、母へ渡す）

母　（受取つて）さうかい。そりやよかつたね。

文子　（手紙を見たが、知らぬやうに）お母さん！　そりや、賃銀値上げなんてものは、一人の爲めにするもんぢやないから……何よ……鑛夫は働く割に賃銀が尠いのに、高山さんなど良い地位の人は、事務所に居たゞけで何百圓と貰つてゐるんだから……私の會社でもさうよ、重役さんは會社へ一寸と顏を出して、厭らしい話ばかり言つて、私達を嘲弄つて歸るだけよ……それで、その割に、少し、鑛夫へも增してくれといふんぢやないの？　慰勞金なんかを……？

母　さう言つてもおまへ、高山さんなどは、その方の學校を出とるんだもの、小學校だけの者と一緒ごとに出來ないよ。

文子　私の會社なんか、女學校でも小學校きりでも同じよ。

母　女はね、そりやあ當りまへだよ。まあ、そんなことよりこの手紙でも讀んでごらん？（と、手紙を火燵の上へ置いて）

利男！　その他に何も、高山さんが仰有らなかつたかい？

利男　うん。今晩、內に來るつてたよ。

文子　何て圖々しいんだらう。子供を瞞して手紙を言付けて置いて、今晩來るなんて……馬鹿ばかしい、あんな人のところへ、誰が行くもんか。

母　何をそんなに怒つとるんだい？　讀んで見たらいゝぢやないか？

文子　讀まなくても分つてゐるわ。人を馬鹿にしてる……四十にもなつて、よく、嫁、嫁ツて騷がれたものね。少しは自分を考へたらいゝわ。（と、手紙を破る）　厭な奴！

（二人、呆然とする。氣まづい沈默が漂ふ……）

（電燈が灯く）

利男　お母さん！　御飯にしよう？……お腹が空いた。

母　さうだつたね、（と、御飯を裝ひながら）文子！　おまへもお上り！

文子　私、いゝわ。

母　どうして？……喰べたらいゝのに。

文子　……（バスケットから、一通の手紙を出して讀む）……

（二人、喰べ始める）

文子　高山さんね、こんな手紙を會社へ寄越したのよ。ふん……飽れて物が言へないわ。（と、手紙を御膳の上へ乘せる）

母　……（手紙を見やうとしない）

文子　家にお金が無いと思つて、頭から人を見下げてるのよ貧乏人なんか、何時でも嫁に貰へると思つてるんでせう。ふん。馬鹿にするにも程があるわ。

母　まあ、おまへ、さう惡くとるもんぢやないよ。あの人だつて、奥樣に死なれて、男手一つでやつとるんだもの、少しは同情してやつたらいゝぢやないか？

文子　同情するのはお母さんの勝手よ。私にまで強ひたつて私には、あんな卑怯な人へ同情できないわ。

母　おまへ、そんなことを言つて、内のことを知つとるのかい？

文子　知つていても知らなくつても、そんなこと問題ぢやないわ。

母　ぢやあ、おまへ、内が今、どうなつとると思ふ？……お父つあが達者だつたからこそ、おまへも女學校を卒業させて貰つたのだが、病氣になつてから、どうしようもなく、高山さんにお願ひして、藥價代などを一時立替へて貰つたのだ……それが亡くなつて、返すあてもないのに、御葬式などで他に不義理も出來たので、又お借りしたのだ。さう親切にして下さるのに、おまへを望まれて、斷るわけにいかないでないか？

文子　だつて、そのお金の利子、一割だとかつていふのを拂つてゐるんぢやないの？

母　そりやあ、この不景氣に、只で貸しはしないよ。

文子　ぢや、結局、みんな拂へばいゝぢやないの？

母　さう。そりやいゝけど、どうして拂ふのだい？

文子　私が、宍戸先生にお願ひして、學校へ務めるわ。

母　何を言ふんだね。二十や、三十の端金ぢやあるまいし……

文子　幾らなの？

母　おまへが學校を出る前の年から寝んだのだから、さう……三年越しの長患ひだもの、五百圓を越へとるよ。

文子　五百圓!?

母　さうなるよ。

（利男は御飯を喰べてしまつて、默つて坐つてゐる）

母　（戸口の方を見て）すう／＼風が這いつと來ると思つたら、戸口が開いとるんぢやないか。（と、立つて行つて、戸を閉めやうとして　外に人が居るのに氣付く）……おや、誰かと思つたら、里見さんぢやありませんか。さあ、さあどうぞ、お這入り下さい。外はお寒いでせう？

里見　なか／＼寒さがとれませんね。（と、這いつてくる。四十位の太つた體を外套に包んでゐる）

母　さうですね。寒中と變りませんよ。お寒いのに、よくゐらつしやいました。どうぞ、どうぞこちらへ……文子！お炬燵を片付けとくれ。

文子　……（先刻破つた手紙を懷へ入れて、火燵と食卓を隅の方へ直す）

里見　どうぞその儘　……寒い時は、どこの內も同じですからな。

母　（座蒲團を薦して）ゐらつしやいませ。

里見　（坐つて）やあ今晩は。

（文子と次郎も挨拶する）

里見　（文子へ）昨日、お歸りになられたさうですね、お疲れでせう？

文子　……はい。

里見　文子さんは、內地からお歸りになつたんですから、嘸お寒いでせう？

文子　差程でもございません。

母　本當に、この節の寒さは强うございますからね……文子も歸る早々、お炬燵のお守りですよ。ほツほツほ……

里見　いやあ、はツはツはツ、全く、この頃の寒さは時候離れがしてますからなあ……はあ、こんな時には、炬燵へ這いつて、一杯やるに越したことはありませんやあ、はツはツはツ……時に何ですか、文子さんのお務めは、青森だとかつてましたね？

母　さうなんです。

里見　……會社の方は、すつかり止めて……？

文子　い、いゝえ……

里見　さうですか。ぢやあ、やはり……？

文子　……一寸、病氣なもんでしたから。

里見　いよう、そりやいけませんなあ。

母　もう、殆どいゝんです。

里見　直つたんですか？　あゝ、そりや結構です。

母　一寸した脚氣でしたから、何も、病氣といふ程のものでもないんです。

里見　あゝ、足。足ですか。足位は何でもありませんや。なあに……高山さんの所へ行つても、會社のやうに立續けで働くんぢやありませんから、すぐ、すぐ直りますよ。……どんなことをやつてるんです？　會社では……？

文子　會計。

里見　ほう、算盤ですな……こりやいゝ。これぢや高山さんも、あんなに金があるんだから、文子さんのやうな算盤彈きの巧い人を、奥さんに貰つちやあ仕合せだ。ねえ、小母さん！

母　本當に、文子も大變喜んどるんですよ。

里見　さうでせう。姑があるわけぢやなし、有るのは金だけときてるんですからな。はツはツは……男の僕でも、振ひつきたい程の良緣ですよ。ねえ……はツはツは……

母　何ぞ……高山さんからお話でも……？

里見　おうつ……それについて來たのですよ、今晩は……ほんとに、すつかり忘れてた……一日も早く、取極めてくれといふ話でしたから……實は、今日は月末だしするから、四月初めでもと思つて伺つたのですが……どうでせう？　その邊のところは……？

母　左樣でございますか、御苦勞樣に……何ですか、うゝ高山さんは、今晩おいでになるやうなお話でしたが、そのことは何も、里見さんへお話ございませんでしたか？

里見　おゝ、さうですか。そりや少つとも知りませんがね、來るとしますと……いや、これは、こつちから押しかけた方がいゝでせう。

母　さうですね。こんな汚い所へおいでを願ふよりは、お伺ひした方が話も爲易いでせうし……

里見　……としたら、すぐ參りませう。途中で逢つちや藝のないもんですからな。

母　まあ、來て戴くとすぐ、立つて戴いて……

里見　いやあ、構ひませんよ。

母　御迷惑ですね。

里見　いや、そのことは、ま、ま……さういふことにして……ちや僕は、これでお暇をしませう。

母　お構ひもしませんで……ほんとに……では、お伴させて戴きませう。

里見 (抵頭いて) どうも、御邪魔しました。

(一同、應へて、御辭儀をする)

母 (文子へ) ぢや、行つてくるからね。

文子 ……

里見 (土間へ下りてゐて) 外は寒いですからね、むじりでも引掛けんと……

(母、毛布を着て、里見と一緒に出て行く。)

(文子は、火燵を元どほりに直して、利男と二人であたる。)

文子……利男さんは、宍戸先生に教はつてゐるの?

利男 さうだよ。

文子 何とも言つてやしなかつた? 先生は……?

利男 遊びに來いつてたよ。

文子 私に……?

利男 うん。

文子 さうを……學校で言はれたの?

利男 うん。

文子 ……それだけ……?

利男 うん。

文子 先生、いゝ先生でせう?

利男 ……

文子 怒る?

利男 (打消す) うゝゝん。

文子 毎晩行つてるの?……先生の所へ、雄一は……?

利男 ……

(雄一が歸つてくる)

文子 あら、早かつたね。

雄一 うん。カンテラを取りに來たんだ。

文子 どつかへ行くの?

雄一 う、うゝ、さうぢやない。

文子 何するの?

雄一 ……(上手の、臺所へ這いつて行く)

文子 (急に) 雄一! おまへ、隱しちやいけないよ。何か、皆の爲めにすることなら、さうだと言つておくれ。ねえ。姉さんだつて、力にならないことはないんだから……

雄一 (出てきて) 何でもないんだよ。

文子 ぢや、どうするの、今頃、カンテラを持つて行つて?

雄一 (稍慌てゝ) うゝ、電氣が暗いんで、そ、その、先生の内へ大勢集まつたのに、部屋が暗いから灯けるんだよ。

文子　……いゝわ。訊かなくつていゝわ……ちや、早く歸つておいで……お母さんは、高山さんの所へ行つたから、歸らない内に、三十分位で歸つておいで。

雄一　なに、高山さんの所？……何しに行つたつだらう、今頃？（と、カンテラを持つて、狼狽して出ていく）

文子　（戸口の方を見詰めて、獨語）やつぱりさうだ。先生も……（急に利男へ）先生は、今日來いつてたね？

利男　うん。

文子　（苛々してきて）あゝ、あんな人の所へ行くのは厭だ……私は、わたしはどうしたらいゝだらう。（と、泪を押へて）……お母さんだつて、あんまり非道いわ。ひどいわ。……お金の爲めに押付けるなんて……あゝ、あゝ、私を、わたしを賣るんだ。私は、わたしは、あゝ、私は賣られていくんだ。（泣伏す）

利男　（誘はれて泣出す）姉さん！　ねえさんよう！

文子　（顏を上げて）……おゝ、利男！……利男は立派な人になつておくれ、ねえ……姉さんがお金を出してやるから、中學へも、大學へも行くんだよう。ねえ。金持なんかに負けちやいけないよ。ねえ。ねえ、利男！

利男　……

文子　（半ば自分へ言ふやうに）雄一まで、私を信じてくれない……仕方ない。仕方がないわ。私だけ學校を出たんだから……僻むのも無理はない。

（突如、遠くから喚聲が聞えてくる。二人は驚いて、耳を澄す。）

（大勢の叫聲は、斷續して、幕切れまでつゞく）

文子　何だらう？　あれは……（急に）さうだ。先生がやつたつだ。（と、立上つて、いきなり外へ出ようとする）

利男　姉さあん！（と、泣きながら、姉を追ふ）

文子　……

利男　（土間で、姉へ取縋つて）行つちや厭だ、いやだあ！

文子　……（利男を戸口際迄引づつて行つて、呆然と振返る）

利男　姉さん！　行かないでよう、どこへも行つちや厭ア！

文子　（意識したやうに）あつ、利男！

利男　（姉を振つて）行かないでえ！

文子　（凝視してゐたが、泣きじやくり）ど、ど、どこへも、い、いつ、いきや、し、行きやしないわあ。（と、利男を抱いたまゝ、泣き崩れる）

（また喚聲があがる。續いて、半鐘の亂打、らんだ、らんだ……の内に）　幕



狼

アレクサンド・ルヤコヴレフ

雪が消えて、森の下生えは葉に蔽はれこんもりして來た。暗い夜、母狼は子供達をば、街道や村の方に近い、からはなさうや懸鈎子のぎつしりからんだ深い繁みの中に、巣をみつけて移しかへた。仔狼たちの生れた古栖は見棄てなければならなかつた。春の水が森のぐるりをすつかり浸したからである……。

もう年をとつた世馴れた母狼は、何處に移轉したものだかと、眼敏くながい間場所を物色した。結局この繁みが一番適當してゐた。高い樹木の根もとには小さな灌木が密生してゐて、通り抜けるなどはとても覺束なかつた。そして繁みの中には兎が澤山棲んでゐるし、肝心なことは、村や街道から遠くないので、羊や仔牛がたやすく手にはいることであつた。

仔狼は――みなで五匹だが――もうよく歩いて、自分でも獵をやりはじめてゐたが、しかしまだまるで仕込まれてゐなかつた。獲物のそばに忍びよりながら、突然お互に啀みあつて金切聲をたてたりするので、後で母狼はうんと折檻しなければならなかつた。肝心なことは、子供たちはまだ危險と云ふことを知らなかつた。うつかりしてゐると、何處か街道か、まかり違へば村の眞中に跳び出すかもわからない……。

彼等はもうめつたに乳も呑まなかつた。ことに一番成長した二匹はまつたく乳房にも觸れず、肉ばかり食つてゐた。ところがこれが一番母狼の心配の種だつた。自分でもう大人だと思つて、許しもなしに繁みから跳び出すのであつた。

母狼にとつてはこの時分が一番苦しい時であつた。産むのも少なく、育て上るのも少なく——おまけに仕込んでやらなければならない。ところで生活は惘々として危險にみちてゐて、一寸うつかりしようものなら——死だ……。母狼は數週間も引續いて狼らしく當前に寢られないにとさへあつた。子供達が眼をつむる——いまのうちに早く獲物をとりに行つて來なければならぬ。眠る間などありやしない。さて歸つて來ると、今度は彼等が何處かへ跳び出さないやうに見張らなければならない。

母狼は考へた、子供に力が出來、智慧がついて來たら、息がつけるだらう。繁みの中で懸鉤や、からはなさうの去年の朽葉の蔭に身を横たへて、母狼はうとうとしながら安樂な生活のことを考へてゐた……近いうちにそんな時が來るだらうか。そして心が晴々としては自分で答へるのであつた。

もう今にやつてくる……。

×

森はますます活氣づいて騷がしくなつて來た。まるで不安な醉拂つた生活がその中に流れ込んだやうであつた。何か偉大な力強いものゝ呼吸が力強く森をこめた。

母狼はこの醉心地を知つてゐた。靜かな喜びをもつて彼女は森の回春を迎へた。雪消の土の重々しい醉ふやうないきれ、松の若々しい匂、おどおどと樹間を洩れて射し込む太陽の光——これらのものはみな母狼の心に物憫ましい、それと同時にはやり切つた感情をよび覺ました。息孔を擴げて、濕つた生温い空氣を心ゆくまで吸ひこみながら、彼女は若い溫い血潮を飲んだかのやうに、あまく眼を細めるのであつた……。

森は遠くまではげしく音高くざわめいた。山鷸が啼いた。夜毎には鶴群が聲たかく喚びかわした。森畔では兎が淫らかはしく叫んだ。そしてこれらの騷音の中に母狼は暖かさと食餌にみちた綠の春を感知した。

茶色の朽葉の散りしいた小さな空地が繁みの一處に出來てゐた。毎朝母狼は子供達を此處につれて來て、日向ぼつこをし

た。その間子供達は金切聲を立てながら母親の周圍を駈け廻つた。母狼は誰か他人が近づきはしないかと、鋭く耳を欹ててゐた。彼女はほんの幽かな匂でもよく嗅ぎわけて、眼をつむつたまゝでも、彼女の周圍はずいぶん遠いところまで、何がどうなつてゐるか知つてゐた……。

×

ある時森の小徑を歩いてゐるとき、高い樹の梢に、何か大きな黒い鳥を見うけた。鳥は重い團塊のやうにづつしりと枝の上に懸かつて、息を切らしながら周章てた眼であたりを見廻してゐた。母狼は驚いて鳥に眼を据えた。すると鳥は重々しく羽搏きして他の樹に飛び移つた。しかし母狼はその鋭敏な感覺で、さてはこの鳥はひどく疲れて何かに脅えてゐるなと、氣付いた。だいいちこの鳥はまつたく見知らぬ鳥であつた。

母狼は四邊數里の間森には誰が住んでゐるか、よく知つてゐた。森の住人をみな知り、その色や匂を知つてゐた。ところがこの鳥に出會つたのははじめてである。

同じ日に母狼は尾のある美しい鳥の群が聞き慣れない叫び聲を擧げながら、森を横切るのを見た。鼻をあげて嗅いで見て、母狼は不安になつた。まるで知らない匂である。ところでそんなことがその後度重つて來た。何處からか他所の鳥が周章て疲れて群がつて飛んで來るのであつた。

何處か樹の天邊にとまつては、地上に降りるまでにながい間下の方を眺めてゐた。彼等がこの森にまつたく緣故のないことは明かであつた。

もう數日經つと森に他所の獸が現はれた。母狼は野山羊の大群や、次には見知らぬ狼に出會つた。

重苦しく啀みつけ、唸つて大きな牙をむき出しながら、彼女は狼のそばを通りすぎた。狼の方では腰を据え、尾を捲きこんで、同じやうに腹立たしく唸り出した。しかし彼は元氣の拔けた不幸な樣子をしてゐた。それで母狼は安心して傍を通りすぎて、子供達のゐる巣の方に歸つて行つた。

かうして出會のため母狼には重苦しい感情が生れて來た。

——一體この他國者どもは何處から來たのだらう。何が彼等をしてその生れ故郷から逃げ出さしたのだらう……。

だがその解答は見出すことが出來なかつた。

×

風のない夜であつた。巣の中に横臥つてゐながら、耳を立てゝ母狼は敏く聞き澄ましてゐた。すると突然彼女はまつたく聞き慣れない物音を聞きつけた。鐵の音を高くさせながら誰かゞ街道を乘り行くのであつた。

ながい一生の間に母狼は街道の暮し振りも知ることが出來た。彼女は其の方のすべての物音、すべての叫聲を知つてゐた。ところが新らしい物音はまつたく知らないところのものであつた……。

街道を行くのは、どうやら、大きな大きな軍隊らしい。そして各々の車が鐵の音をひゞかしてゐる。神經をちくちく引張る何と云ふ不愉快な物音だらう。

母狼は巣から出て近くの小丘に登り、鋭く耳を欹てた。車隊はひつきりなしに續いてゐた。

村では人々が呼び交してゐた。その聲が猶一層母狼を不安にした。朝はまだまだ遠いのに人々はもう起きてゐる……何故だらう？……しかし肝心なことは車隊だ！——何處からあんな澤山の荷車とあんな澤山の物音が來たのだらう？

母狼は鼻を擡げてながい間立つて耳を澄ましてゐた。すると彼女の暗愚な頭に、俄かに鋭い不安の念がきざした。野獸特有の烱眼な不安の念である。

燒臭と外に何か酸ばい厭な臭ひが街道から森一面に漂つた。濡れた馬の臭ひと人間の汗の鋭い臭とがこんがらがつた。

夜明け前の風が吹いた。癇癪を立てた母狼は腹立たしげに鼻を鳴らしながら、元に戻つた。

×

その晩から不安は段々と大きく擴がりだした。恰度何處か廣い大海から靜かな入江に波濤が押寄せるやうに、森の中にも不

安の波が流れ込んで來た。

周章て疲れた他所の鳥が飛んで來た。長い道中に困憊しそして何かに死ぬほど脅かされた他所の獸が駈けこんで來た。街道は怖ろしく不安さうに鳴り轟ろいた。以前は靜かな壓しつぶされたやうな村も急に喧噪にみちて、まるで大きな宿場やどのやうになつた。食餌は充分にあつた。街道には斃馬がころがつてゐたし、また後には野山羊が樂に捉まへられた。仔狼は何時も滿腹してゐて、毎日草地を跳びまわつてゐた。母親は彼等に馬の骨の大塊を引曳つて來たり、毎日半殺しにした兎や仔山羊を持つて來ては子供達に殺させた。

仔狼達は立派に成長した。

しかし母狼自身は落着きを失つてしまつた。不安はわななく手で森を捉へた。恰度嵐の前のやうに鳥は不安に叫んだ。獸はきよときよとしながら歩き廻つた。森の中に誰か巨大なものが來て、すべてを破壞し、すべてを壓しつぶすのを、皆が待つてゐるかのやうであつた。

獵に出かけるにしても母狼は子供たちを殘しておくのがもはや心配であつた。皆の待つてゐる不幸が自分の留守の間にやつて來て子供達を壓しつぶすかも知れないと考へた。それに獵に出ても遠くへは行かず、すぐに歸つて來た。

仔狼は巣からほとんど連れて出て貰へなかつた。

そして若し子供の誰かゞ勝手氣儘に拔け出やうものなら、彼女はこの親不孝者の耳をこびどく咬みつけた。

×

ある時、母狼は獵から歸つて來ながら、急に身震ひして感じた、子供たちのゐる巣の中を他所の狼がうろついてゐる。仔狼たちは大きな聲で悲鳴をあげてゐた。屹度他所の奴にびつくりしたのに違ひない。母狼は他國者の方にとんで行つた。彼はそれに出會頭に眼をどんよりと光らせ、繁みの下にすつこんで、齒をむき出してかすかに唸り出した。母狼はうなりながら何時でも跳びかゝからんばかりの樣子で彼に近づいた。

腹立たしげに眼を瞋らし、耳を伏せて、お互の身の廻りをうろつき、用心深く嗅ぎあつた。他所の狼の方がまづ最初になつかしさうに尻尾を振つた。彼はずいぶん年をとつてゐた。彼の頭は禿げ、脇腹の皮は襞のやうに垂れ、眼の傍には廣い黑い滲が出來てゐた。そしてその中にはまだ涙が乾いてゐなかつた。彼の牙は黄いろくなり、缺けないばかりであつた。

母親は他國者を嗅ぎまわして見て、冬彼と共に狼群に交つて駈けまわつたことを思ひ出した。思ひ出しては懷しさうに尻尾を振つた。さうした後で彼女は巣に歸つた。彼も彼女の跟について來た。

好奇心にちぢれ切つた仔狼たちは大きな喊聲をあげて彼等を迎へた。しかし母狼が低く唸ると子供たちは默つた。不器用に跳びはねたがら彼等は狼に近よつて、八方から彼を嗅ぎまわした。狼は安心して草地に横臥はつた。何か彼には落着かないところがあつた。母狼の裡にある不安が、やはり彼の裡にもあつたのである。

夏狼が群居することは滅多にない。彼等を結合させるのは唯冬の飢餓か、早春の狂はしい野獸の愛かである。

それにいま老狼はもはや母狼親子の處から去らなかつた――同じ巣に眠り、同じ草地でいかつく四邊を眺めながら日向ぼつこをした。ところが二日經つとまたもう二匹の狼が彼等に加はつた。未知の前に立つ恐怖が、彼等を互に接近せしめたのである。獵には夜毎に全群が一緒に出かけ、もはや仔狼も連れて行つた。街道は相變らず氣を苛立たせるやうな響を立てゝゐた。村では毎夜火が燃え、犬が吼えてゐた。森は他所の鳥や他所の獸で一杯になつた。

恐怖のあまり用心を忘れた野山羊が眞向から狼群にぶつかつて來た。しかもこのことは猶一層母狼を不安にした。

×

ある晩街道が特におそろしく響き渡つた時、老狼は耐らへ切れなくなつて、憐れつぽく泣きだした、さうすると全群みな腰をおろして鼻を上の方に擡げ、長く引張つて憐れつぽく吼えはじめた。恰度過ぎし寒い冬の日のやうに……。

――何處からこんな騷ぎだ？　何が起つたのだらう？

狼どもは理解することが出來なかつた。怖ろしい變動が起つてゐるのだと云ふことを、全身で感知した。

恐怖、何處か遠くから遁げて來た野獸や、森に飛びこんで來た鳥が襲はれてゐるその恐怖が、狼群にも波及した。

母狼は身體の加減が惡く感じられた。まるで皮膚の下に砂利でも撒いて肉をこするやうに、苛々させられた。彼女は氣むつかしくなつた。一々の物音が彼女に耳を欹てさせ、そして脅かした。彼は眠りを失つた。彼女は瘠せた。もし森の中に獲物が充分にでもなかつたならば、多分彼女は飢餓のために死んだであらう。

しかしある時狼たちはみな脅かされた。全群こぞつてである。靜かな夕暮、村に外くの人が留るのを、彼等は聞いた。甲高い叫び聲が聞えた。だが後で日が暮れてしまふと、村から街道に大群衆が出發した。そして突然皆の人が恐ろしい聲で一時に叫び出した。誰かゞ鋭く口笛を吹きはじめた、誰かがどんがん鳴らしはじめた……。狼共はこんな叫聲や騷擾には耐らへ切れなくて巢から跳び出し林の深奥に遁げこんだ。

×

夜の靜寂のうちに脅やかす物音が聲えなくなるまで、全群は列をつくつて遁げた。

仔狼達はすぐ疲れた。憐れつぽく悲鳴をあげながら、彼等は後におくれはじめた。母親は彼等の耳を引張り、おそろしく唸いて、群の後から逐立て、逐立した。そして先頭が遠く去つてしまつた時、彼女は急に意地わるく泣きはじめた。

疲れ喘いだ狼群はある見知らぬ樣で立ち留まつた。母狼と子供達も跟をおうてやつて來た。舌を垂れ、毛はざんばらになり昂奮してきらきら綠色に眼を光らした狼のさまはいまはしい亡靈の群に似通つてゐた。その息は汗と胃の中で腐つて行く血の惡臭を四邊遠くまで擴がらした。

疲れ切つて彼等は恐怖も忘れ、森の中で丸一夜寢た。ところが朝になつて急に、彼等は殆ど前のと同じやうに騷がしい他の街道の方に近づいてゐたのに氣が付いた。

それどころか片脇の森の草地には、人々が野營をしてゐて、大きな焚火をたき、するどく怒鳴つてゐた。狼共に野營のすぐ傍まで近よつた。つながれた馬は重々しく鼻を鳴らしながら、おぢけて一團にかたまつた。誰かゞ叫び出した。すると狼はび

くとして野營から遁げ去つた。

しかしそれでも彼等は途中で、若い子馬を首尾よく竊めて、全群でそれを森の中に逐立て、樹に押しつけて引裂いた。大急ぎで食つた——追撃を恐れたのである。

母狼は生溫い、まだぴくぴくする肉に貪婪に、小面憎く歯を突き立てゝは、空氣を吸つた。しかし駭ろいたことには、何時も彼女が喜んでうなりながら獲物をずだずだに引裂き、好い氣持になつて溫い芳ばしい、ぺたぺたする血潮を飲む時に感じるやうな何時もの說明の出來ない滿足は味はへなかつた。

以前の快感はなかつた。不安、疲勞、周圍の情況の不慣れ、こんなことが彼女から喜びを奪ひ去つたのである。

鱈腹喰つて狼群はまた先へと進んで行つた。此處ではじめて母狼は森の樣子がすつかり變つてゐるのに氣付いた。周圍には新らしいまるで慣れない匂が漂うてゐた。人間と燒臭とが強く匂つた。森には新らしい獸や鳥が棲んでゐた。片脇には角の生えた鹿の群がうろうろして鼻を鳴らしてゐた——この地方ではまつたく珍らしいお客樣である。眼には映らないが、しかし野獸の狼の直覺ではたやすく感知出來るところの、新らしい徵候がすべてのものゝ上に現はれてゐた。

懸念のない理解のない森の喜ばしい力強い物音の中にも生物の無意識な不安がもぐり込んで來たのである。

狼はながい間うろつき廻つてゐたが、やがて晝間に深い谷間に落つくに至つた。其處はじめじめして暗くて息苦しかつた。仔狼や母親や年寄りやあたりの生物がみな何かを恐れ何かを待つてゐるなと云ふことを本能的に感知した。そしてさう解つて見ると溫順しくした。

恰度小さな子供達が怖ろしい魔法使の話を聞いたやうなものである。

×

夜、晝、もう一夜とおだやかに過ぎた。狼群は二つの街道の間を馴染みの場所、場所とたえずうろつき廻つてゐた。

街道は一層囂しく怖しくなつて來た。ある時狼群は樂隊の響を聞いた。これは彼等にとつては慣れないことであつた。彼等

は耐らなくなつて憐つぽく吼えはじめた……。

其後次の日の明け方近くに彼等は、森の中の低い灌木の繁みをかき分けながら灰色の人達が歩いてゐるのを見た。肩にはあの電光を放ち雷の音を立てゝ殺すところの怖ろしい棒をかついでゐた。狼共はたやすく彼等から遁れた。

しかし母狼は憂ひに胸がしめつけられた。彼女には人々が狩獵をやつて狼をかり立ててゐるやうに思はれた。この狩獵つて奴は以前にもあつたことだ。犬を連れた、同じやうな怖ろしい棒を持つた人々が集つて、懸聲をかけながら密生した繁みの中に踏みこんで來たものだ。しかし其時分には安心な拔穴や遁路が澤山あつて、樂に免れることが出來た。

それで母狼は免れて來たのである。

だが今日では不安、喧騷、恐怖が八方から押よせて來た。

――全體どう解釋したら好いのだらう？

彼女は傷ましく胸がしめつけられた。

そして彼女は優しく注意深く銘々の子供を舐めてやつたが、こんはことはもう長い間やらないことであつた。彼女にはまだこんなに便りない子供達が傷々しいまでに可哀相であつた。取摑まへて殺してしまふだらう……。

×

萬事がなほ先々までかうして不安な混沌の裡に續いた。何處か遠く遠くの方で雷鳴がとどろいた。母狼はそれを知つてゐた彼女は數時間前に暴風の襲來を定めることが出來た。

新らしい暴風は變な工合に進行した。遠くで雷鳴があるのに、大氣は靜かで、暴風の前に普通であるけだるさもなかつた。

そしてこのことは更に新らしい不安をうんだ……。

街道では叫喚の聲が響いた。何處かでは鋭い銃聲がした。そして夜でも晝でも狼は、街道で人々が荒々しく怒鳴つたり、女子供が泣いたりするのを聞いた。

たえ間なく森を獣が駈け拔けた兎、狐、狼が遁げ廻つた。恰度洪水か火事から免れるやうであつた。用心を忘れて彼等は狼群のそばをまつしぐらに走つた。ある時は臆病な山羊が眞向から狼群に跳び込んで來たことなどがあつた。氣の立つた狼共はぶりぶりしながら彼等を絞め殺した。それでも彼等はたえず駈け續けてゐた。そして今ではもはや駈けて留ることをしなかつた。

狼共は此處で長く留つてゐるのは危險だと云ふことを覺つた。それが何故かは彼等自身も知らなかつた。しかし襲ひくる暴風は彼等を遁げ出さした。そこで彼等は他の獸の跟をおうて出發した。

さて出掛けて見ると烈しい恐怖が彼等を捉へた。すべての小徑も拔け穴もみな知つてゐる馴染の土地から拋り出されて、狼は人込みに迷ひこんだ子供のやうに自分を感じた。仔狼たちは憐つぽく悲鳴をあげた。母狼は癎癪を起した。同行の連中は幾度かお互に意地惡く啀みあつた。

ある時には狼群が夜通し人々と一緒に街道を歩いてゐたことなどがあつた。そしてその輜車隊と一緒に村にはいつて行つた馬が不安さうに身を潜め、犬が吠え出した時になつてはじめて、人々は狼めがけて犬にけしかけた。そこで菜園傳ひに森の中に遁げこまねばならなかつた。

ところが森畔には灰色の外套を着た人達が立つてゐた。狼共は眞向から此等の人にぶつかつた。

――狼だ！　狼だ！　群衆はびつくりして叫んだ。銃聲が響いた。狼は颶風のやうに森に駈けこんだ。しかし射擊は彼等に追ひつくことが出來た。群の脇を走つてゐた老狼は矮にもがいて、悲鳴をあげ、皺嗄れて倒れた。

母狼は恐怖のあまり氣が狂はんばかりであつた。彼女は子供のことも忘れてしまつた……。そして狼群が森の中で立ち留つた時、彼女にはいよいよ最期が來たと思はれた。仔狼が一匹ゐなかつた。もはや悲歎に堪えられなくて母狼は憐つぽく唸り泣いた。

銃聲が今度は八方から響いて來た。

晝間と夜通し狼群は谷間に坐つてゐた。そしてもう一日經つて、次の夜谷間に鋭い人間の叫聲、銃聲、轟音、打音が響いた。森の中がとゞろき渡つた。すべての生物はみな姿をひそめた。

狼群は蛇のやうに谷底の崖下の太い樹の根元にぢつと横臥つてゐた。

轟音――あの不可解な怖ろしい轟音で、母狼のあれほど恐れてゐるのが――まつたく近くになつた。

其後もう夜明け時分に何か怖ろしいものが恰度谷の中に落ちて來た。母狼はその唸り音を聞き取つたと思ふと、それに續いては怖ろしい大地を震動する爆發が起つた。崖からはごろごろと土塊が降つて來た。狼群は恐ろしさに吼え、路の見境もなしに遁げ出した。母狼は何だか野原のやうなところを走つたことや、恐ろしい火が燃えてゐたこと、轟音の鳴りとゞろいてゐたことを覺えてゐるばかりであつた。その先は何も覺えがなかつた。

彼女が我に返つた時はもはやまた夜で、四邊はひつそりしてゐた。母狼はひどく脇腹が痛かつた。そして靜かに血が流れてゐた。彼女は何處で負傷したのか覺えがなかつた。

四邊には狼もゐなければ人達もゐない。

疼痛を忍んで母狼は用心深く草地に出て四邊を見廻した。空氣全體が人間の血で充ちてゐた。草地には人間の屍骸がころがつてゐた。鋭い匂のする不動の怖ろしい屍骸だ。何處からか呻めき聲や狼のに似た吼聲が聞えて來た。しかし母狼は知つてゐた、それは人間が吼えてゐるのだ。

かくて屍骸を眺めながら母狼は急に感じた――今はもう獨りぽつちだ、子供も失つて仕舞つた、恐らくは永遠に……

鋭い痛みが彼女の胸を襲つた。母狼は痙攣したやうに身をもだえ、後に後足で坐つてはとがつた鼻面を上にあげて自分の運命を天に訴へるかのやうに吼えはじめた。(完)

編輯室にて

一と月に一遍ぐらゐ、のんびりと外に出て遊ばうではありませんか、と、よく私たちは話合つては話し合ふのですが、さて、實行は六ケしい。一體、私たちは遊ぶことを知らなさぎますね。雜然と一日がくれてしまつて、ゆつくり休みもせず、みつちり本もよまず、深い思索に耽けるといふ落つきもみ出しがたいその日暮らしなのです。

道をあるいてゐて、久し振りに風に吹かれると、今さらの樣に考へこむ時がよくありますが風のない日といふものが、滅多にある筈はないのに、風に吹かれてゐて風を知らず、道を步いてゐて道ばたの草が花咲き、實をもつてゐるのをつい知らずにやりすごしてしまふやうな、うつゝけな暮しを私はしてゐると思ふのです。

×

ある專門家から、日本人の壽命は平均二十九歲にしかなつてゐないといふことを聞きました。人生僅かに五十年といひましたのに、これは又何と恐ろしい統計でありませんか。(乳幼兒がひどい勢ひで死んでゐますから、一層壽命が短く現れるのでせうけれど)農村はこれよりもつと短く、二十四五歲にしかならぬさうです

これには、やつぱりお母さんを丈夫にするより外ないでせう。そして、子供を丈夫に育てるより外ないでせう。ところが私たちの仲間の多くは、お母さんだから休みなく働き、お母さんだから粗食に甘んじ、お母さんだから一切の不合理にも泣寢入りし、お母さんだから趣味も娛樂も道樂もない、生活におひまわされてゐます。

×

子供が丈夫であることほど、親孝行はない。さう思つてゐる私は私の二人の子供は、何より親孝行をしてくれてゐると、感謝してゐたのでしたが、紀伊ちやんが今度病氣になりました。勿論心配のことはない、ハシカにかゝつたのです。成べくそばから離れぬ樣に介抱をしてゐると、子供の敎育といふことに、あんまり無關心に忙しく生きてゐる身の上が、すまない〳〵と思はれて來てなりませんでした。然し私は、私の澤山の友人たちの身の上を、一緒に考へずにゐらせませんでした。職業のためにどうしても家をあけて出かけなければならぬ人たちは、私が持つてゐるほどの自由だつて、自分の子供を愛撫する上に持つことを許されてゐないぢやありませんか。又、一日ぢう母親として家にゐたつて、外に心配ごとがあるならば、しんみり子供のことをかまつてゐる、心の餘裕をもつことは出來ないでせう。

私を初めとして、さういふかはいさうな母親たちへの福音は、子供の環境をもつと明るく、慈愛深く、喜び多いものにしてゆくことより外にないと思はれます。母親の涙から出發して社會改造運動へ、どうしても母親は、如何に社會をよくしてゆくか、の問題に無關心でゐるべきではないと、痛切に思はれるのです。(むめお)

東京市會の改選は行はれた。全國民注視の下に甦生の市會は、今その姿を私共の前に現はしたのである。

思へば意義深い選擧だつた。東京市の自治體としての興廢を、この一戰にかけての勝負だつた。それだけに、既成政黨にとつても、無產政黨にとつても、負けてはならないこの一戰だつた。

逃すな機會、市會の淨化 大きな期待と興味は、全市民有權者の持つその一票にかけられたのであつた。だのに、いよいよふたをあけてみれば、棄權率は三割四厘と云ふ不成績。演說會のあるものは、聽衆不入りをかこつ有樣だつた。しかしとにかく選擧は濟んだ。しかも無產政黨の花々しい戰跡を殘して。もとより滿足の結果とは云ひ得ないけれど、とにかく、東京の甦生市會に第一の議員として六名無產の代表を送り得たことは、慶賀すべき事である。見よ、政府與黨の威を笠に着て横暴の振舞多かつた政友系の慘敗を、又所詮は一つ穴のむじなとも云ふべき民政黨の不成績を!

今や選擧終了とともに、司直の手は動いて居る。そして中には當選市議の中にも、その身邊の危險を傳へられて居るものもあると云ふ。何たる醜ぞ! 彼等は未曾有の汚名を帝都自治の名の上に負はせながら、いさゝかも恥づる所な

きのみか、なほこの惡をあへて行はふとする。もはや民衆は現在の既成政黨には、何ものをも期待しやうとしては居ないのだ。

無產政黨の意外なる進出に驚いたものか、鳩山書記官長は、

「この際既成政黨の團結が必要だ」と云つて居る。何と云ふ無節操な、御都合主義な云ひ分ではないか。しかし要するに、これが現在の政治屋の本音なのだ。この心根のあらはれが、日比谷の議會に於て毎日演じられる活劇數卷となるのである。



婦人消費組合協會のビラ播き

いま朝野の大小各政黨が、必死になつて騷いで居る小選擧區制還元案も、この筆法から割り出されたものに外ならないのだ。彼等の内部の醜狀は、刻々に新聞紙を通して、又様々な報道によつて、私共の前にさらけ出されて來る。私共は何時まで政治をかうした、職業政治家の餌食にしておく事は出來ないのだ。ほんたうに國民のための政治が行はれるやうに、寸時も注視を怠つてはならないのだ。

同時に、も一つ今度の選擧について感じさせられたことは、都下各婦人團體の活動である。それは何れも相當に力をつくされたものであるのに、惜しいことには、完全な提携と聯絡が保たれなかつたために、その效果は半減されて居りはしなかつただらうか？この事については、今後のかうした企ての時に當つて再考し協力をつくされたいと願ふものである。

とにかく東京市會改選は終つた。成功とも見やう。不成功とも見られやう。それは見る人々にまかせるとして、私共婦人の今後の使命は何であるか。市政に直接參劃し得ない婦人として私共は何をしなければならないか？今大きな宿題が、私共の前に課せられて居るのである。

（文）

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部　貳拾五錢（郵稅一錢）
半年分　壹圓四十錢
壹年分　貳圓八十錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和四年三月卅一日　納本
昭和四年四月一日　發行

東京市牛込區市ケ谷本村町四
發行編輯兼印刷者　村山文子
東京市神田區淡路町二ノ三
印刷所　協營社
東京市牛込區市ケ谷本村町四
發行所　職業婦人社
振替東京六四一六〇番

◆著者の「世界著名革命文書」と「殉難革命家」とはすぐ禁止

群書と用書

定價壹圓　送代十錢

- ○新居格傑作集月夜の喫煙
- ○青野季吉隨筆論文集
- ○山田清三郎傑作[illegible]讀者
- ○山崎『地震憲兵火事巡査』
- ○幸徳秋水全集四册（名文集書簡集評論集文撰集）
- ○消費組合の理論と實際
- ○山崎痴作集辯護士大安賣
- ○石川名著世界社會運動史
- ○岡陽之助日本社會運動史
- ○近藤榮藏露國革命運動史
- ○佐倉啄二製絲女工虐待史
- ○赤松英國婦人勞働運動史
- ○小川未明傑作彼等甦らば
- ○中西伊之助武左衛門一揆
- ○山內房吉社會思想解說
- ○尾瀨敬止革命藝術大系
- ○神近市子女史傑作集
- ○水野婦人運動當面諸問題
- ○無產派傑作集上下千頁
- ○入交總社會主義童話讀本
- ○無產派隨筆論文集上下二册
- ○本荘可宗勞農解放辭典

解放群書（33）　守田有秋著

世界革命婦人列傳

四六美裝 二五〇頁　定價壹圓 送料拾錢

◇何の間違か本書は未だ禁止命令なき故遲れ馳せ乍ら廣告をする。

目次大要

『解放群書』『宣傳用書』及月刊誌『解放』發行所

解放社

東京芝區新櫻田町十九
振替東京三六九四四番

◆が本書及本著者の「ユートピア全集」はまだ？

（定價皆各壹圓
送代皆各十錢）

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和四年三月三十一日印刷納本
昭和四年四月一日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動 第七巻 第四號 定價二十五錢

昭和四年四月一日印刷發行
大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（每月一回一日發行）
『婦人運動』第七卷第四號（附錄二號）
編輯兼印刷人　村山文子

婦人運動 附錄版

—赤松明子—

市政淨化の旗の下に行はれた東京市會議員改選は、豫期以上の效果を收めてその幕を閉ぢた。殊に無產黨から六名の當選者を出したことは、勤勞無產大衆の階級的勢力の飛躍的發展を示すものとして私達に力强い希望を抱かせる。

中立を標榜して當選した者の中、實際全くの不偏不黨で終始するものも皆無ではないが、巷間傳ふるところによれば、その多くはだん〳〵馬脚を現はして來て選擧費用の後仕末をして貰ふことを條件として某政黨に加入したものがあるとか某問題の通過を條件として身賣りしたものがあるとかいはれてゐる。

しかしこれは始めから分りきつたことであつて今更驚くには當らない。一人でもこんな中立議員に期待をかけてゐた者がありとすれば、私はその人の甘さと不明に對して嘲笑したくなる。本當に終始一貫勤勞無產階級の味方として、否公僕として戰ふ者は無產黨議員あるのみである。私達婦人は決してこの事を忘れてはならない。このことをはつきり頭にをいて、今後の市會議員の行動を監視すれば私達無產婦人の進むべき道がはつきりして來ると思ふ。

ゴシップ

田舍者

吹きまくる烈風ものかは、雄々しくも都大路へ繰り出した婦人消費組合協會の一行、マルビル前で解散しての歸り、神琴子さん、入江秋子さん、海老澤秀子さんの三人、數はつた通りに乘合自動車に乘り込んでやれ一安心、ところが切符を買はふとすると、

「二區十四錢です。」

「來るときは七錢でしたよ。」

よく〳〵聞けば、車を間ちがへたことゝ判明、神さん如何にも口惜しさうに「それでは、麴町までゆきますわ」と云へば「それでは二十一錢です」と云はれて二度ビックリ敗亡。遂ひに大枚十四錢也を拂って、四谷見附で一同無事下車したとは、これだから田舍者は充分御注意。

村山さんと鼻

フランス歸りの井滴さん「何が不愉快だと云ふても、毛唐の女のあの鼻の高いのにア、僕ア全くたまらなかつたね。女の馬鹿に鼻の高いのは、君、實際いやなものだね。」

眼をパチクリ〳〵聞いてゐた村山文子さん、こつそり外套のエリを立てゝ鼻をかくしてしまつたので大笑ひ。

ミラネーゼ

Sさんから奥さんへ、大枚四十幾圓也のミラネーゼの羽織が届いた。例に依つて例の如き奥さん、この頃は買物にも、講演にも、訪問にもいつも一帳羅のミラネーゼ。

「君ん處の社長さんは、この頃馬鹿に豪勢ぢやないか」

「いゝ羽織を着てゐるわね、あれ誰の？！」

いろ〳〵姦しい私語をじうりんして奥さんはいつも一帳羅のミラネーゼ。

ところが或日大いにしよげて歸って來た。

「今日は、講演のあとで一人の娘さんから、消費濟の先生なら、もつと質素にして頂きたいと云はれたわ。全くきうだわねえ。」

奥むめお

百姓は激しい勞働をいとはず、米を作り、田を耕して、而も、その生活はだんだん疲弊して行きました。とう〳〵、やり切れないものだから、内職——副業に手をつけました。蠶を飼ひ、繩をない、莚を織り織機を織り、團扇を作り、糸を撚り、花卉を作り等々、八十の老媼も、産婦も姙婦も、五つ六つの鼻垂れ小僧も一家總掛りで、精出して稼いで働きつゞけて過勞のうちに明け暮れる樣になりました。

それで獲たところの結論は、と云つたら、今日のこの全國津々浦々に漲り渡つてゐる農村疲弊の悲鳴であるとは。

うちの暮しが辛いからと云ふので、その足しに娘さんが職業を求めるやうにな

◇**着物の襟垢や汚れを落すには** 揮發油を用ひますが、揮發油は絹物や木綿物の地質をかなりいためますから、ベンジン油を用ひるのが理想的です。ベンジン油は絹物より木綿物に使ふと效果が目立ちます。その方法は、垢のついた部分に熱と濕氣を與へる事が肝要です。冷たくとも或程度まで垢は落ちるが、熱と濕氣を與へてすぐ手當てすると、どんなに地質の中へ喰ひ込んだ垢でもきれいに落ちます。但アイロンなどで熱を短かく與へるより蒸しタオルを用ひて、二回三回も垢のついた部分を、あたゝかくしてそれから油で拭きとるとよろしい。

隣家の細君カラスミを持つて來て「誠にお恥しいことですがこれは……」

早飲込太君「これは恐入ます、私はカラスミと來ちや、目が無いので……」



◇**玉子の殻の利用法** 小豆を煮る時、珈琲を煎じるとき、玉子の殻を砕いて共に煎じますと、アクがとれて色も味もよくなります。又鍋や土瓶を洗ふ水にも砕いて入れますと、焦付もよく落ち土瓶のくもりもとれます。

◇**白水の使ひ途** 毎日の米の白水をそのまゝ捨

友のたより

徳井うめの氏——(東京府)

前略。この金子些少ながらお小遣の端をさきたるもの、何なりと御事業の爲に御使用下さらば幸ひの至りであります。私の家は普通の月給生活者で、三男一女がありますが、末は六才で少しばかり私の手數もはぶけるやうになりましたが、主人はやはり世間並みに女性には餘り理解のない方でありますので、私も心には思ひながら、婦人問題に表面より御手助けすることが出來ないのでございます。けれども一ト月か二月に一回を慰安に出京したいと思ひます故、何かの講演會の折に、御高説を目の當り拜聽致したいとそれのみたのしみにいたして居ります。時折又私の感想を聞いて頂きたいと存じます。ます〳〵御建全に淸く正しく且強くお進み下されませ。弱き私どもの爲に。深き感激と共に惜しき筆をおきます。

可愛川しげ子氏——(廣島)

春らしくなつて參りました。先日はお手紙下さいまして、嬉しく拜見致しました。永い間の希の叶つたよろこび、たとへ樣もありません。生くる道を得た。何時々々迄も愛して下さい。おしへて下さい。おねがひ致します。同封の資金袋、おそくなつて濟みませぬ。今振替にして社の方へ送りました。あと二十枚送つて下さい。全部で五十枚ぐらいは集めたいと思ひます。袋はなくても好い樣なものですが、地方ではね。お解りになつて下さいます事と思ひます。至急

りました。婚資も、職業で得るやうになりました。遊んでゐるのは勿體ないといふ思想が一般に浸潤してゆきました。そして結婚して嫁さんになつてからも、職業から離れられない事情の人がだん／＼殖えました。子持ちのお母さんさへ、何か働く仕事がほしいと家を外にして收入の道を探し求める時代で今日はあります今日、斯くの如くに一切の人間が、ほんとうの人生の價値を忘れて、たゞ／＼金子を得るために寢食を外にして餓鬼のやうに稼いでゐるのでありますが、何故その精力を、金子を消費する方面にむけて、消費組合運動に加はらないでせう。働いて安い月給で搾取され、ものを買つて高い値段で搾取され、滓の滓のやうになつてあえいでゐるプロレタリア。われ／＼の經濟生活に光明あらしめるものは消費組合をおいて外にありません。家庭婦人も、職業婦人も、消費組合に加盟して下さい。

てずに白木綿物を洗濯するときに使へば、よく汚れが去ります。又野菜類（蓮根や牛蒡等）を煮るに用ひますれば早く茹ります。

◇油の燃える場合 には水をかけますと火勢を一層強くするばかりです。土泥なり粉なり砂なりをかければ消えます。又揚物をするときには青菜を用意しておき、燃え立つたとき入れるとすぐ消えます。

◇編ショールの洗濯 温湯石鹼水を作り、二升五合に小匙一杯の割のアムモニアを加へ、此の中へ汚れたショールを入れ、三十分間ばかり浸けておき、後その中にて清潔になるまで、脈上、脈下搾などし、それから取り出して同温度の清水にて濯ぎます。

◇食べ物のこぼれ煮物汁や肉汁等の汚れ を拭くには、生大根のオロシ汁を白木綿の小さい袋に包み、よごれの上にあてゝこすること。脂肪性のよごれはとれにくいものですが、大根オロシを用ふると跡方もなくきれいになります。



隣家の細君「いえその、どうして頂くんですか教へて頂きたいので…」で、込太君大テレ

に至急に、待つて居ます。やがて理想の殿堂の完成の日、上京したいと今から考へて居ます。そして一度お目にかゝつて、聞いて頂きたい色々の事がございます。御身御大切に遊ばして下さい。

岸川つるを氏 ——（佐賀）

其後何のお便りにも接しませんから、隨分御多忙と存じます。皆樣大車輪の御樣子がありあり見えます。皆樣方の此時、京都智恩院の御佛體の樣に千體の變現が欲しいと思ひます。職業婦人の家のため、一層の御自重願はまほしく存じます。私もどうかして働きまして幾分の御助勢をと存じてゐますものゝ、末弟が本月初めから縣立病院に入院中、その他親類に二三人の病人がありまして色々思ふやうにまゐりません。別紙新聞の「婦人運動」の廣告記事の切拔が入れてあります。御一讀下さいませ。その前には高い廣告料を拂ひまして、いたしましたけれども、當地方の婦人には何の反響もありません。それで又別紙の新聞の樣な記事を知人に頼んでのせて戴きました。それに應じて下さいましたのが三人、地方の樣子はまだ／＼婦人運動に無關心です。眠つてゐます。私共婦人に關する問題は婦人自ら解決つけべきものだとも自覺がありません。自分がしなくても誰ぞ他にして下さる方があらうと云ふ心の持主のみで、實に哀れに思ひます。新聞廣告に應じて下さつた方三人——相浦初千樣、小部よし子樣、武富平七樣、別紙募金の方は、從妹山田まつ子がよせてくれました。まだ行く家はありましても病人三人を持つてゐて苦しみつゝ、これだけでも働い

▲問答欄▼

【問】消費組合に入るにはどうしたらよろしいのですか。小賣店より買ふのとどれ位安上りになるものでせうか。（大阪府下玉村芳子）

【答】消費組合は地域的に方々にあるものですから、あなたの御近所にある組合を訪ねて入つて下さい。　ないならば同志を語らひ合つて婦人の手でぜひ創つてほしいものです消費組合は、全て加入するにはその組合にて定めてある額の出資金を初めに十圓なり五圓なり出すのです。つまり自分たちの組合の資金の一部を負擔する意味です。この資金は組合脱退のとき勿論返して來ます。消費組合はどれ位安いか？　といふ質問は屢々聞くのですが、原則としては組合は廉賣をしないことになつてゐます。成べく市場一般の値段か公設市場なみで賣つてゐます。然し、中間の小商人を除いての取引きですから小賣商人の儲けてゐる以上の儲けは、當然組合に殘ることになるわけですが、組合はこれを積立てゝ（剩餘金——つまり儲けです）一層有利な仕入れをするための資金にあて、組合の宣傳費にあて、組合員の娯樂教化費にあてるのでありまず。そして、多くの場合、剩餘金の半分を前述のやうに組合のために有意義に使ふてあとの半分を、組合員の買上げ高に比例して配當してゐます、結局組合員は初め組合から市價なみに買上げてゐて、配當された分だけ安いものを買つたわけですし、又、いはゞ組合の宣傳教化費仕入金の一部にあてた分も、事實上は安く買つて共同に積立てゝおいたことになるのであります。

もし、婦人消費組合協會に加入するための御質問でしたら、事情は少しちがひます。婦人消費組合協會は消費組合を初め婦人と經濟問題全般にわたつて一緒に研究し、實行し、特に婦人の立場からする社會改造運動にまで進まうとしてゐる團體ですから共鳴の方はどし〳〵入つてほしいのです。協會でも、幾分の品を賣つてゐますからこれを澤山に買つて下さるほど、婦人の共同積立て金が協會に積立てられて行つて、有力に運動が出來るわけであります。協會は會費として年に五十錢、出資金は不要です。

かういふ仕事は、職業婦人も、學生もそれぞれの規模でぜひ協力してやつてほしいものです。共同して買ふのですから第一安くなり、組合の仕事ですから品質でごまかされる心配がありません。それに、協力一致、共同の必要と利益を何よりはつきりと敎へてくれるからであります。

現在の消費組合にて婦人の立場から不滿多いものも少くないのでありますが、これも、婦人が一致してどし〳〵希望を述べて改造してよくしてゆくべきであります。

てくれますことを、およろこび下さいませ。私の手でもも少しは出來さうに思ひますが、何しろ蟇金袋がなくてされません。少し送つて下さいませんか……（後略）

楠瀬喜美氏——（高知）

希望にみち溢れた春、相變らず御達者で御活動のことゝ存じます。婦人運動の月々に成長することがたまらなく喜ばしく存じます。私には今月號は特に有益に思はれました。附錄が出來大きくなり、一般店頭に發賣することの出來ましたのを心から御祝ひ申上げます。本月九日或小學校で、縣下聯合處女團總會がありました。そして戸梶さんが「女」といふ題で極力女のえらいといふ事をのべられましたのです。實に痛快きわまるお話ぶりでありました。拍手は場をゆるがせ、暫く聲が聞えなかつたのです。私も手のいたい程拍手いたしました。いかにもさうだと思ひました。なかで「女はえらい。男子はあの酒や煙草をのんで、何億といふ金を費消するではありませんか」といへば、男子は火の出る程赤い顔をして、微苦笑されました。或は又いかにもさうだと、はにかみながら心から笑はれるし、是非この有樣をお目にかけたかつたのです。溫室には茄子の苗が延び出しました。何もかも生氣をおびて來ます、職業婦人の家も、一日も早く完成されます樣祈つて居ります。ゴシップ、大變面白い俳句が出來ましたね。奧樣のあの御挨拶、隨分ふるつてゐますね。今月は前月より一日早く雜誌が屆きました。來月はもつと早くおねがひいたします。

三浦やゑ氏、同あさ氏、同たま氏（靑森）



婦業婦人の家

募金報告

(3)

募金袋を充たして下さつた人々

豫定の起工式ができなかつたのに、三月六日の地久節に、祝電やら手紙やらを大分いたゞき恐縮いたしました。未だ豫定金額まで達しないのでとり掛れないのです。大至急に募金を濟ませたいものです。お助力下さいませ。(入江あき子)

佐藤平太郎、石橋忠、岡田とよ(五)伊達宗美、山川太良吉、水谷齋三郎、葛岡吉之助、伊藤俊一、宮本金七、橋中一郎(二、五)大矢時吉、伊美倉喜田村虎藏、市來一郎、鹽澤英一、宮下茂弘、本間信一郎、橘清作、原田靜子、緒方浩熊、黒木春雄石井由太郎、辻松一(二、五)原富治雄、大澤傚三杉谷馨、刈宿儉風(二、五)原ますみ、大山軍司、川上辰太郎、市川洋(二、五)藤井英夫、深谷貫、濱田三郎、藤本光淸(二、五)寒川志津枝、淸水武、大塚定藏、後藤昔雄(二、五)長沼仲、寺田龍、藤浪愛、三橋義雄(二、五(大里正仁、齋藤正夫、大沼能、木下まさえ(二)高橋英彌、淸水淳(五)大沼豊、木下秀市、高田はじゑ、大坪信、大沼經子、古田民夫(二)荻野重晴、河野寛、大谷義夫、今村こと、仁田保、小室定雄、木村熊吉、山脇さかゑ、(二、五)土屋美和、矢田すゞ子、藤澤福三、江田優子(十)宮口テル、渡部花江、高倉龜三、羽生計三(二、五)稻垣ハルエ、風間德子、飯島萬次郎、鈴木ツネ、山田操、三浦しげ、海野淸助、輕部千代子、板垣スエ、浦木國江、河合秀雄、樋口ハルノ、佐藤時子、長谷川美知、内藤ツネ、子松溫子中川英子、佐野科子、加藤政二、鈴木キヌ、藤沼壽子、荒川操子、伊藤祐太郎、三浦サエ、小田まさる、石原たま、西村芳雄、沼澤シゲ、古賀智津子、簡易保險局統計課集計課女子有志(二〇)村木たみえ、大谷房太郎、鈴木茂三郎、加藤善一、高木かる子、佐藤いつ子、渡邊富雄、楠正子、石井五郎、染井すゑ、沼田壽子、溝口ひさ、能勢要子、西市猶彦、鈴木四郎、梨徹子、糀澤家重子、熊田、武田梅子、高橋きよ子、白石猿太郎、大塚正治、安田辰馬、石井照子、唐澤秀子、堀金ふゝ子、菊池ツネ、松本貞巳、松尾たけよ、臼井キク、横山ミノ、福士こせい、伊藤はる、加藤登喜、古賀トメ、加瀬リン、齋藤靜子、藤本萬吉、川上菊枝、若村虎之助、荒川東美子、鈴木フミ子、安田若子、米田フミ、岸上綾子、鈴木嘉、三井治

職業婦人の家の費用の一部にお當て下さいませ。私共姉妹は少しではございますが、三人分お送り致します。多くの人の力によつて築かれる家、ほんとに力強く思はれます。冬未だ去り難い雪の青森で、先生方の御健全を祈つてゐます。

消息

◆橋本春枝さん――こんど、お芽出度があつて影山さんと改姓。
「今、新婚旅行ですつて」
「アラ贅澤ね」
「だつて郷里へアイサツ廻りによ」
◆小枝しら子さん――同じく、西村しら子さんと改姓。橋本さんも小枝さんも、結婚したつて職業をつゞけるのよ、と至つて元氣なのは何より力强い。勿論、職業婦人協會には倍舊の御熱心です。

石井八重子氏逝去

誌友、職業婦人協會々員、石井八重子氏は、かねて宿病療養中のところ、遂ひに去る二月廿三日午後五時三十分逝去されました。二十五歲。簡易保險局に勤務せられ、お家のお手傳ひもしながら獨學で、美事に專檢をも得られた秀才であられました。これからは私たちと一緒に、もつと婦人社會問題の研究にも入つてゆかうとお元氣でしたのに、惜しい〳〵ことをしました。

郎、中野佳子、關谷文一、石本久治、宮﨑ムメチ、平野陽望、藤波錄太郎、池田よしの、本多喜久男、岡本滿枝、井澤よしの、中尾三郎、山﨑とし、幸田靜江、布澤周、河村鑑三、高橋德三、井上たつ、宇野文子、遠藤希三郎、宮脇芳藏、太田一平、佐々木忠雄、藤澤幸一、石塚富太郎、兒山靜枝、酒井忠司、安武裕男、小倉せなを、丹松長藏、平井完太郎、信部工雄、横山新助、榎土傳重、德山山鏡、永井市太郎、藤科春吉、城春代、高萩よう、後藤いな子、森本寬、馬島光子、鈴木春正、野﨑傳次郎、野崎芳江、高瀬くに、後藤照子、樋口香美、林澄、糸賀滿諧治、寶井正、大糸吉五郎、吉田竹太郎、大橋殘三郎、井上榮一郎、小林とき、定形二三郎、定形日出子、槃谷　　、石渡光子、大場すゞ子、關美彥、關いま(五)臼井きみ子、龜井
、澤青烏、荒井久江、神田靜子(五)升内まさ子(五)森川陽一、臼井濟子(五)大里ひで、伊藤鉄、石非照子、川井すみ子、段田称子、明石榮、大和道子、無名氏(二、五)津田米子、西池春子、廣瀨五女子、中村信子、加島靜子、岩﨑照子・小池道子、梅山麗子、雨宮のぶ子、光岡榮、高橋しち(二)北森千代、瀧澤千代子、鐘紡共濟會店員(十)山口しま、平澤眞喜子、原口德三、福島冬子服部綾子、藤井美代、樋市孝藏、大久保美代子(二)小林靜江、北條多香子、小尾芳枝(十)伊藤

(五)安藤たね子(五)内藤芳子(五)宮田春江(三)藤井榮、酒井濟子、原政子、石黒十代、

島居みさ子、今村千春、今村義男、中島繁雄(二)伊坪靜(二)西尾庄一、松島きみよ、牧内志津、本木誠三(五)本條秀世、中島隆一、浦野元俊、金谷

造、富樫信行、山内勇吉、杉澤新市、鈴木武男、早川よし子、中島松代、駒田さく子、鈴木縫子、鈴木あや子(二)濱田義子(二、五)柴田類、池田吉太郎、清水義則、金原祐之助、安間やよい、山口佐一郎、平野倉五郎、石井祐二郎、鵜木重次、池谷義治、金子昌三郎、伊藤酒造三郎、川﨑貞明林中寶、佐野章、鐙谷誠一郎、大橋二三郎、關元、松本濟、佐々木征一、吉田三千三郎、岡田喜光、安藤孫七(二)門脇三郎、大住信二、高山不二子(〇、五)瀧田初子(〇、五)服部與三郎、渡邊知信伊東由子、後藤隆、柿瀨正義、本間德太郎、原田自働車主、川端大臣、小俣榮、秋本君子(三)八百丑支店(五)齊藤いと(二)小又よし子、西川榮子(三)須崎政子、須崎鐵三郎、古知屋圭助、野田秀子(二)鈴木ウメ子、田中、井上秀、立花(二)只野(二)渡邊悅子(五)尾形豐三郎、青木米吉、岡部保次郎、山田吉次郎、内山寅之助、尾形力一郎、服井シゲ、稻垣四郎、服井繁昌、川原照、落合道之助、八木澤敏之(五)八木澤トメ(三)八木澤久吉、三上光枝(二)榊原シゲ、加賀千枝子、小田原千代、三上いくよ、柿﨑とき子、阿部合成、根市きぬ、木村富士子、宮﨑君子、川野芳子、佐野信郎、寺田辰夫、更波留子(二)田邊いそ子、黑澤たけ子、田邊濱子、岡﨑常太郎、岡部長章、山〻太一、三井高國、平野細一郎、島村陽來、德江氏扱(六)池田博、無名氏、池田藤子、兒玉玄三、宮部智男、朴尙俶、高橋利雄、小島ヒデ子、高橋勝子、無名氏、榎本八十子(五)松本小枝子(四)榎本喜美子(二)乾蓮子(三)松本ツル子(二)松本文子、尾澤千勢子、尾澤ミスヾ、土谷濟子、土谷政夫、井出馨、松原テツ子、鈴木華子、松本道子、富田倍江、榎本多嘉子、乾將顯、幹靜枝、和田邦子、田淵ヒデ子、富澤千鶴、婆平三、吉田きよ子(二、五)河西松江、加賀てる、山木すい、無名氏(八)河内靜枝(十)野本芳枝(五)伊藤ふさ、丹菊芳子吉田すゑ(三)角谷しづ(三)松下スヱ、掛布あや子(二)高橋咲(二)矢頭絹江(二)朝倉すゑ(二)市川しづ(三)伊吹まさ子(二)升内シモ子(十)仲原ナカ(十)出井さだ、出口むめ、前田せい、渡邊なを、柏木まつ、松本梢、川村カツ、坂本廣子、高田萬子、石井とよ、田﨑芳枝、秋山香、丹治ヒサ、岡野トシ、長谷川ウメ、豐田靜子、兒島安江、伊東すゞ、白井濟子、大内あき子(二、五)齋藤こと、八木琴、佐久間ト、金井和子、人見あさ、小田靜子、伊藤たけ、島きみ、淺沼みは子、鈴木よね、鈴木房子、升森チト、關根喜久子(二)豐田文子、上田良子、伊羅佐久子、長谷川さめ、萩野まつ代、仲原ナカ子(五)佐々木チヤ(二)加藤せつ、加藤うた、加藤喜、加藤條吉、泉時子、中村きぬ、朝長はつ江、野中ヤスヱ、立木フサ子、田崎ミヤ子、藤崎、岩佐さよ子、山口サダ、飯田壽

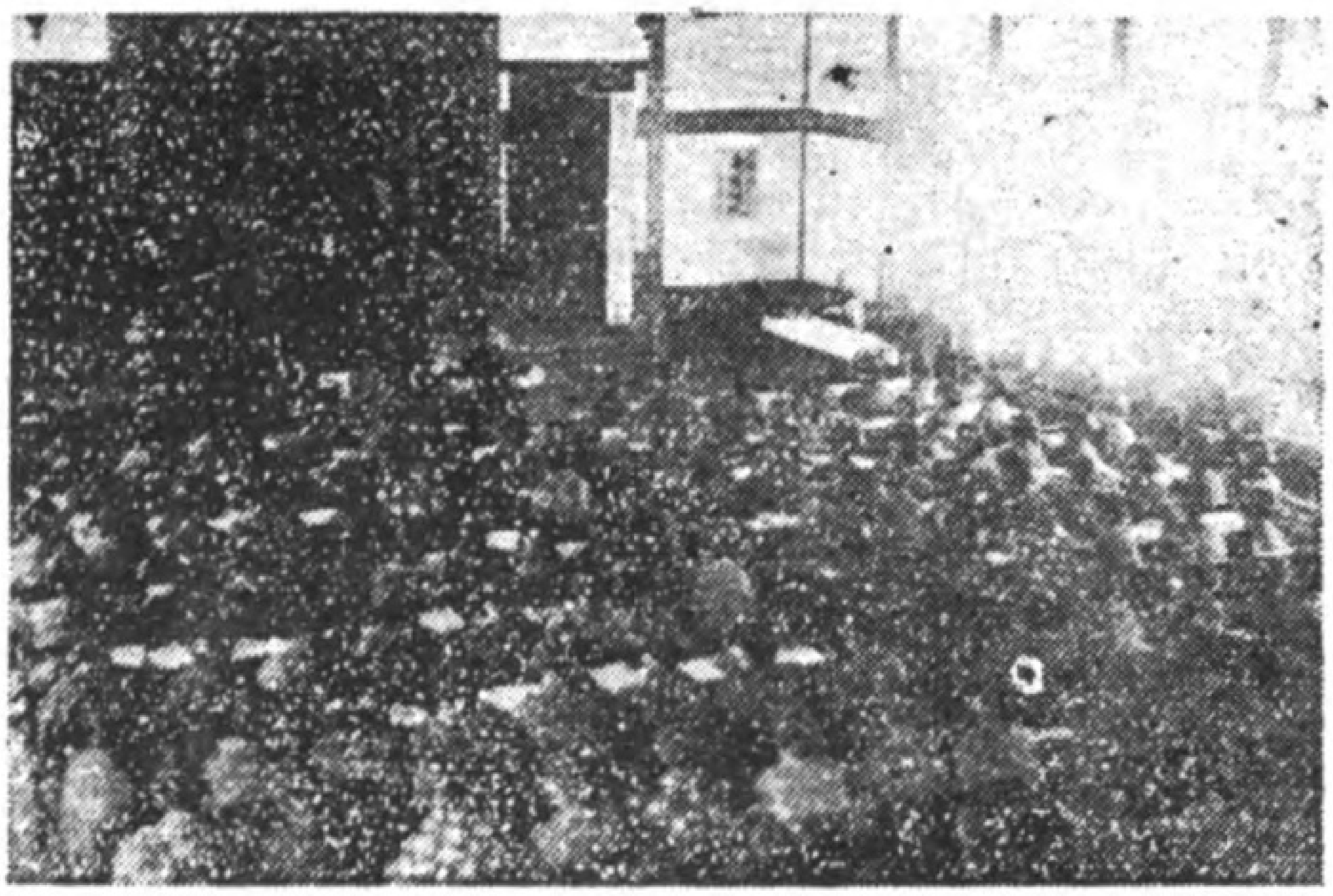
子、大塚美子、永田榮子、山縣德代、辻川政子、出本英佐子、山本成一、村上春子、吉村満子、松島清子、山下春代、荒谷美津子、今井鈞子、小田しづ子、吉田ヨシ子、小田靜子(二)川野春美、稲生しづ子、高橋安子、篠原しづ子、篠原夫人、吉元しづ、福地竹千代、山田安子、水野幸子(二)辛島格太郎、吉田富士子(五)篠沼さつき、多口みつ子、伊達京子、山田みき、熊崎とし子、松本春英、松本靜子、石川睦子、松本千代、川田清千、櫻井秀子、河内なつ、杉山節子、石渡喜久子、河村君子、ヒト子、德尾[illegible]子、加藤靜江、宮下多加子、山口みわ、鈴木きわ子、戸坂米子、廣田たな子、鈴木とよ、松本瀧枝(三)松本(五)山本宣治(二、五)馬烏側(二、五)小川隆男(二、五)秋澤定吉(二、五)大平眞佐子(二、五)關根蘭枝子、森田あゐ、關口とり、栗原よし、吉野千代、吉野美津、市塚ふじ、吉野正雄、星野まさ、星野ふさ、堀口かた、稲垣とり、大熊とり、高野つね、野川千代、小島志津、守正枝、小池千嶽、清宮清、小池光子、守屋ふみ、並木とし、野口たき、野口みや、野口ふく、小池定助、大熊はつ子、大熊せつ、松本敏子、蓮見きみ、栗原むめ、内山つま、中村みね、加藤勘十、山本文子、荻原濱子(十)矢野靜子、高橋きよ子、高橋渊藏、高橋もと子、山口武夫、田中まさ子、田中たき子、瀧川順子、瀧川靜子、竹内みよ子、矢橋房子、矢橋さい子、矢橋まさ子、木村貞恵(二)山下智惠子、庄田里子、村山きし子、波田野靜子、福田良久子、立川浪子、金坂春子、森岡起、西澤こと、松本富美子、橋本康世、大胎むめ、高橋豊治、野田谷満利子、米好信子、根本はる子、淺沼きくい、稲田はる子、上野つる子、沼田よし、小池ヘツエ、金子かよ子、水野美代、渡部はな子、渡部一高、松子、小野ふみ、津野喜代、飯田敏子、竹田花子、猿渡秋子、日本勸行銀行計算係(五)人見靜子、高草幾子、坪田政男、久保田眞、正城章雄、中村艶子、河野きみ江、和田政枝(五)和田とし子、和田數子、畑山とみ、久保田ニ津子、吉川まつ子、山本たか子、山本仲子、塚田み、川上稲子、佐々本花子(二)竹田とり、星野きかよ、平山みち子、杉山この、山本一枝、二瓶達子(三)吉村ひで子。丸岡年、松野祿、川野きく子水野きく子、坪川琴子、吉田みち(三)吉本文子、川田四郎、森淵とよ、森三津野、山川君子、熊本俊三(三)佐々本つや、志立花子、古淵よし子、白木愛子、鎌田隆三郎。花山君枝、森本一雄、

今月だけムリに三頁貰つてやつと募金報告の一と整理させて頂きました。未だ去年のくれに頂いた袋の分の報告が濟みかねてゐたのです。來月號からきつかりと在金高及び受領月日を書き入れて御報告でもしますので何より嬉しうございます。

はじめて近火といふものに出會つて、いろんな事をさとりました。なにしろ「火事だ」といふ叫びを聞いたのと、火の子の洗禮を受けたのと、殆ど同時なのですから、全くやり切れたものではありません。もうとても駄目だと思つてしまふと、不思議になんにも惜しいものはなくなつて生者必滅の理を覺つたやうな氣がしました。たゞ無事でさへあればと父と二人で、祖先の位牌と、他所樣から拜借したものだけをあつさり持つて、早々に裏口から逃げ出しました。私は正々堂々と表から出たかつたのですが、この非常の際にそんな呑氣なことを云つても居られないので、殘念ながら安全な方から落ちる事にしたのです。ところが足を踏み出すがいなや、目の前の炭小屋に飛火が燃え移つて、盛んに燃えて居るではありませんか。それから大さわぎで炭屋にしらせたりして、とにかく安全地帶へと逃げのびました。折柄の烈風にあふられて猛火は益々威力をほしいまゝにして居ます。目をあけて居られない程けむいのをがまんして、とにかく「我家」の燒け落ちるまでは見とゞけたいと意地を通してがん張つて居ました。

そのうちに消防隊の努力のおかげで、どうやら下火になつて來たやうです。かうなればもうしめたもの。あゝ無事でよかつた。有難い！心から感謝の念が溢れて、とみに言葉につくされない思ひを致しました。この經驗だけでも大きなものですし、その上何一つ被害のなかつたことなど心から有難く思つて居ます。

(村山文子)



豊岡大學の講演光景

◇埼玉縣豊岡大學

豊岡町には町民の積立金五萬圓をかけて作つたといふ公會堂がある。「職業婦人の家」も、せめてこれ位に作らなくてはとつく〲と眺め入つたことであつた。豊岡大學はいつもこゝで催される。

婦人部は今年初めての試みであるが、同じ募集方法をとつたに拘らず、婦人の聴講申込みの方が六人多く（男子一九四人、女子二〇〇人）婦人の求知心がこの頃いかに高いかをこゝでも有力に證據立てて呉れたのはうれしかつた。それにつけても、讀書勉學の機關にとぼしい各地農村に於て、かうした簡易な大學講座、公民講座をどん〲催してほしい。

會後主催者側の質問をうけて婦人公民權、參政權と婦人の問題等について悉しく話をする機會を與へられた事は非常に愉快であつた。丁度帝國議會に於ても論戰の中心になつてゐるこの問題について今の若い婦人たちが何にも考へてゐぬといふ筈がないと思ふ。而も多くの地方婦人の指導者たちは講師の話が參政權問題にふれることを恐れてゐるのは全く時代おくれで批難さるべきである。

◇群馬縣聯合處女會

二日にわたつて二千數百の處女に會つて話して來たことになるのであるが、聞き手としての訓練がよくついてゐるのに驚いた。この上は自發的に、國體を中心として協力して働き出すやうに若い人たちのあの意氣を熾んに燃やしてほしい。

◇賀川豊彦氏を迎へて

三月十三日の午後に職業婦人社へ賀川氏が見えた。職業婦人協會の人たちは晝間は勤めのために集會に出られない。やむをえず婦人消費組合協會の人たちにだけ案内を出して一緒にお話を聞いた。將來の婦人消費組合運動について多くのことを考へさせられる話であつた。大いに力づけられた。

募金袋について

募金袋について意外なお加勢をいたゞいつてゐますのを嬉しく思ひます、あともう一息集めたうございます。あなたのお知り合ひのお方で未だお願ひして頂いてないお方にぜひ進めて下さい。

（むめお）

婦人運動
（四月號）

奥むめお氏の時評・田中比左良氏の漫畫・金子茂氏の婦人公民權の成行・山田わか氏他諸氏の家庭を如何に救ふか？・野尻義顯氏の產兒制限問答・大浦輝英氏の戯曲・その他・一部二十五錢・申込は前金のこと。

昭和四年三月廿八日印刷納本　昭和四年四月一日發行　「婦人運動」第七卷第四號（附錄）
大正十三年十一月廿二日　第三種郵便物認可
編輯發行兼印刷人　東京牛込區本村町四